



Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2022年 Facebookページ投稿記事

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>



2022年1月1日

The 81st Annual Meeting of the Japan Society for Equilibrium Research

第81回 日本めまい平衡医学会 総会・学術講演会

会長 北原 紘
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

2022年11月16日 wed. - 18日 fri.
奈良県コンベンションセンター

めまいの原因を紐解く

演題募集期間
2022年
4月14日(木)～
6月9日(木)

<https://gakai.co.jp/memai81/>

◆事務局 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 〒634-8521 奈良県橿原市西条町(54) 5号棟
◆運営事務局 株式会社学会サービス 〒150-0032 東京都渋谷区善哉町 7-3-101
TEL : 03-3496-6950 FAX : 03-3496-2150 E-mail : memai81@gakai.co.jp

新年あけましておめでとうございます。

今年2022年の干支は「寅年」にあたります。「寅」という漢字は弓矢を両手で引き絞る形をイメージした象形文字と考えられています。従来、引っ張ること、伸ばすことの意に使われていた漢字ですが、矢が放たれる準備段階を示していることから「始動、胎動」といた意味が派生したそうです。いよいよ今年はコロナ禍を抜け出し、新しい時代の第一歩にしたいと強く思います。

ところで、今年2022年の秋は「第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会」を担当させていただくことになりました。会期は2022年11月16日(水)～18日(金)、会場は平城宮跡にほど近い奈良県コンベンションセンターです。

テーマは「めまいの原因を紐解く」とさせていただきました。最新の検査法を手際よく利用してめまいの原因を探ることに焦点を当てますが、同様に注力したいのはそのような検査機器を持たない場合にどう対処するのが最善か、皆様方と掘り下げて議論する機会にしたいと考えております。ベテラン・専門会員の先生方のみならず、若手・相談医の先生方、他科の先生方にも、実質的な価値ある情報をお持ち帰りいただきたいという思いを込めた「めまいの原因を紐解く」とご理解ください。詳細はQRコードあるいはURLにて学会HPにアクセスください。

本学会の奈良県開催は、松永 喬大会長以来、実に33年振りになります。神鹿の練り歩く、色彩豊かな紅葉の秋。美しく神秘的な青丹よし奈良にて執り行われる「めまいの謎解き」に、多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

皆様方のご多幸と益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

Photographer KAZUTO SATO



2022年1月7日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新型コロナに注意を払いつつ新5回生1週ポリクリ総括初めをさせていただきました。症例総括とめまいクルズスという構成で6人6様しっかり勉強していただきました。

1週ポリクリはめまい平衡医学の基本と救急トリアージに主眼を置いた「10分でわかるめまいのしくみ」と「10分でわかるめまいの救急」でした。4週ポリクリは耳鼻咽喉科から見ためまい診療に主眼を置いた「10分でわかるめまいの検査」と「10分でわかるめまいの治療」の予定です。

関東、関西にオミクロン株が流行してきました。是非、安全で快適な三連休をお過ごしください。



2022年1月7日

Microbial Drug Resistance, Ahead of Print |
Predominance of CTX-M-9 Group Among ESBL-Producing *Escherichia coli* Isolated from Healthy Individuals in Japan
Takashi Moroi, Ryuichi Nakano, Akiyo Nakano, Kai Saito, Yuki Suzuki, Naoki Nakata, Sana Horouchi, Kouzuke Tsubaki, Tadayuki Kitahara, and Hisakazu Yano
Published Online: 4 Jan 2022 | <https://doi.org/10.1089/mdr.2021.0002>
View article | Tools | Share

Abstract
The detection rate of extended-spectrum beta-lactamase (ESBL)-producing Enterobacteriaceae, microorganisms associated with health care settings, has significantly increased worldwide. Moreover, their community incidence has increased in several countries. In this study, we investigated the prevalence and genetic diversity of ESBL-producing *Escherichia coli* isolated from 947 nonduplicated stool specimens from healthy Japanese individuals, between 2015 and 2019. *E. coli* were isolated on isosychoate-hydrogen sulfide lactose (IHL) agar and identified by MALDI-TOF MS. ESBL were screened through disk diffusion method (cefotaxime with or without clavulanate), and genetic detection and genotyping were performed by PCR and DNA sequencing. Clonal similarities between ESBL-producing and nonproducing isolates were assessed by multilocus sequence typing (MLST). The prevalence of ESBL-producing *E. coli* was 9.7% (93/947). These bacteria harbored CTX-M genes, from which CTX-M-9 (31/33, 96.0%) and CTX-M-1 (13/53, 24.5%) groups were the predominant. The MLST analysis revealed that ST131 genotype prevailed within ESBL-producing *E. coli* (15/53), whereas ST95 (10/53) and ST73 (8/53) prevailed among non-ESBL producers, with ST131 being present in only four isolates. Overall, a high prevalence rate of CTX-M-type ESBL-producing *E. coli* was detected. CTX-M-9 group-producing ST131 predominated among healthy Japanese individuals, similar to that observed in hospital isolates. CTX-M-type ESBL may disseminate clonally among hospital patients and subsequently, within the community.

Information
Copyright 2022, Mary Ann Liebert, Inc., publishers
To cite this article:
Takashi Moroi, Ryuichi Nakano, Akiyo Nakano, Kai Saito, Yuki Suzuki, Naoki Nakata, Sana Horouchi, Kouzuke Tsubaki, Tadayuki Kitahara, and Hisakazu Yano.
Microbial Drug Resistance, ahead of print
<https://doi.org/10.1089/mdr.2021.0002>
Online Ahead of Print: January 4, 2022

Keywords
extended-spectrum beta-lactamase (ESBL)
non-ESBL | *Escherichia coli* | CTX-M
healthy individual

PDF download

感染症の研究は各科において重要であることに間違いはありません。このたび微生物感染症学・矢野ラボとの共同研究でPredominance of CTX-M-9 group among ESBL-producing *Escherichia coli* isolated from healthy individuals in JapanがMicrobial Drug Resistance(IF: 3.43)に掲載されました。

内容：健康人ボランティアの糞便検体から、幅広い抗菌薬に耐性をもつESBLというβ-ラクタマーゼを産生するCTX-M遺伝子を抽出し、その特性について解析した。健康人からも、このESBL産生菌が約10%も検出された。院内だけではなく市中での感染にも注意が必要と考えられた。このような耐性菌が市中にも拡散することで、これまで内服で治療可能であった腸内細菌由来の感染症が、より強力な抗菌薬の点滴を使用しないと治せなくなる可能性が示唆された。



2022年1月15日



和4年1月15日に第37回奈良県頭頸部腫瘍研究会がホテル日航奈良から、昨年と同様のハイブリッドWEBセミナー形式で開催されました。

講演は恒例の「2020年・奈良県頭頸部癌患者受診実態」について、近畿大学奈良病院の太田一郎講師が報告しました。

一般演題は「当科における下咽頭癌の気管傍リンパ節郭清術に関する検討」について、当科の足立詩織医員が発表しました。

閉会のご挨拶は、この3月でご退官される放射線腫瘍医学の長谷川正俊先生に頂戴しました。17年間という長期にわたり、本研究会に欠かせない存在としてご協力くださいました。心より感謝申し上げます。

本研究会は新型コロナの影響を受け、一昨年前から1月開催にずれ込んでいました。最近、7月は頭頸部外科月間に制定されたことすし、次回から再び7月開催に戻す予定です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



2022年1月17日



オミクロン株の影響で、とりあえず今週は急遽、回診は中止、医局会とポリクリはwebで行うことになりました。来週・再来週のごことは週明けの医局会で慎重に決めていきたいと思っております。
今週から初期研修1年目の岡崎秀昭先生が耳鼻科を回ってくれます。



2022年1月21日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は急速に蔓延するオミクロン株に注意を払いつつ、新5回生1週ポリクリ総括をteamsによるリモート参加として開催させていただきました。

症例総括は耳硬化症と耳下腺腫瘍と2種類の耳鼻咽喉科疾患を、6人6様しっかり勉強していただきました。1週ポリクリはめまい平衡医学の基本と救急トリアージに主眼を置いた「10分でわかるめまいのしくみ」と「10分でわかるめまいの救急」を解説した後、実際の症例のトリアージを全員で考えるという構成にしてみました。

引き続きオミクロン株のことを意識しながら、安心・安全な週末をお過ごしください。



2022年1月28日

第二回Nara ENT Seminar
～ピラノア発売5周年記念～

日時 令和4年1月27日(木) 14:00～15:00

特別講演 14:00～15:00
【座長】
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室
教授 北原 紘 先生

「アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎の治療方法選択」

【演者】
兵庫医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室
主任教授 都築 建三 先生



昨日はお忙しい中、兵庫医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の都築建三教授にお越しいただき、『アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎の治療方法選択』をご講演いただきました。

完全リモート配信でしたので、会場は兵庫医大と奈良医大の間にある大阪城近辺になりました。



2022年1月30日



第58回畝火会新年総会・令和4年畝火研究会学術講演会が、奈良ホテルにて開催されました。オミクロン株による第六波が急激に蔓延する状況下ですので、幹事のみ現地集合し、万全な感染対策の下で幹事会を執り行いました。続く総会～講演会は完全リモート配信とし、昨年同様に懇親会は中止としました。学術講演では、この4月から当科で研修する吉田憲司先生(岸和田市民病院)、昨年学位を取得した堀中昭良先生(奈良県総合医療センター)、新たに同窓会入りくださった芝埜 彰先生(大阪回生病院)にお話しいただきました。若手畝火賞は西村 在先生(静岡がんセンター)、畝火賞は西村忠己先生(当科)が受賞されました。特別講演は、近畿大学医学部附属病院・病院長 東田有智先生に、新型コロナ対応にお忙しいところ、お疲れのところをお運びいただき、『喘息治療の現状と将来展望—喘息診療実践ガイドラインをふまえて—』をご講演いただきました。



2022年2月4日



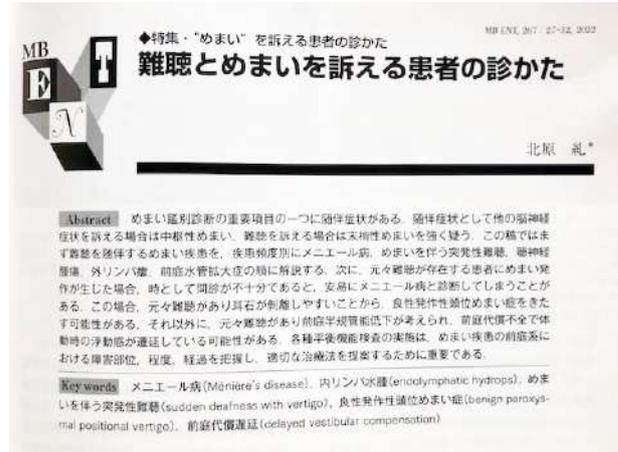
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。急速に蔓延するオミクロン株のため、前回の新5回生1週ポリクリ総括はteamsリモートとなりました。本日は注意を払いつつ、通常通りの対面開催とさせていただきました。

症例総括は真珠種性中耳炎、好酸球性副鼻腔炎、睡眠時無呼吸症候群、舌・下咽頭腫瘍と、耳鼻咽喉科の全領域にわたりバラエティに富んだ疾患をしっかり勉強していただきました。

耳鼻咽喉科医にとって毎年節分の時期は、豆まきの豆による鼻腔異物、厄除けイワシの骨による咽頭異物への対応に忙しい季節です。オミクロン株蔓延のタイミングですので、異物患者さんにならないよう慎重にお過ごしください。



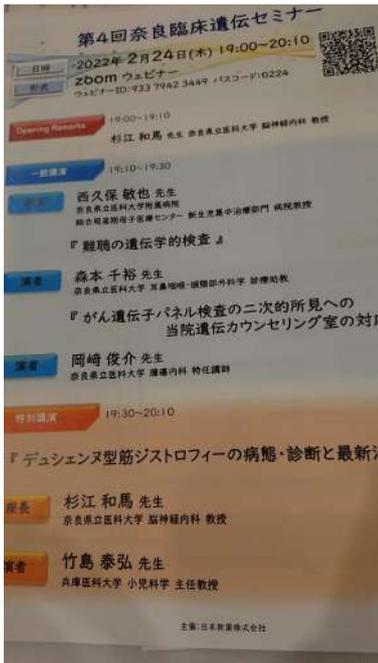
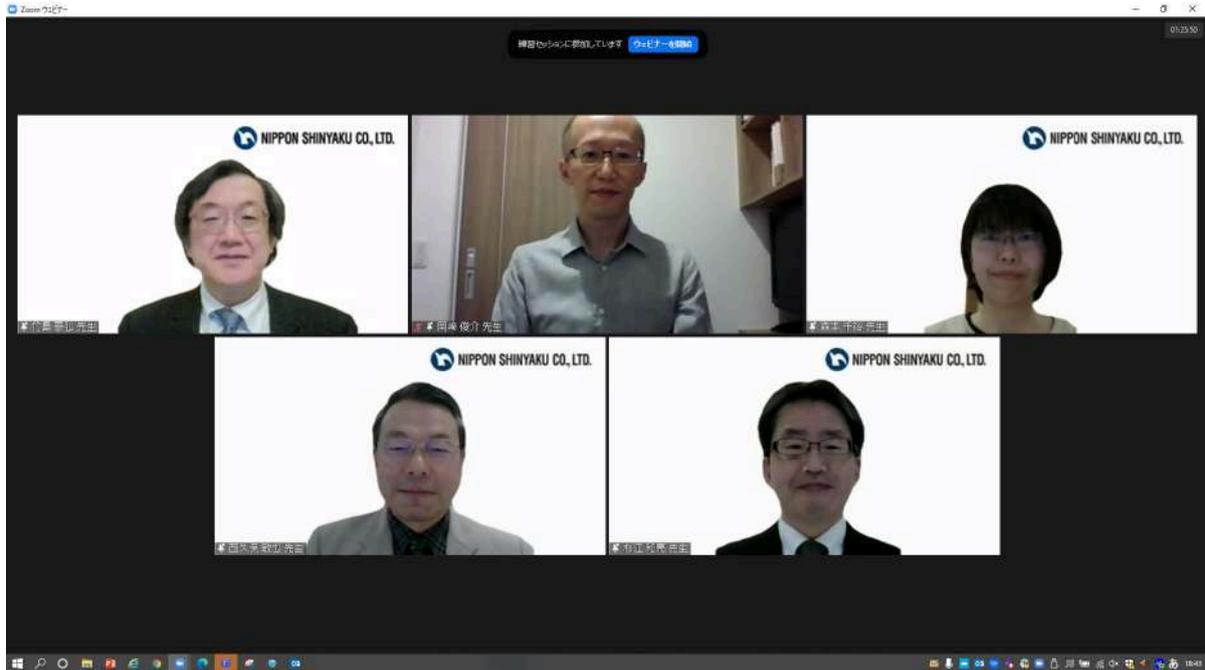
2022年2月18日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日の新5回生1週ポリクリ総括も、蔓延するオミクロン株に注意を払いつつ、通常通りの対面開催とさせていただきます。症例総括は人工内耳埋込術、硬口蓋腫瘍、甲状腺腫瘍と、耳鼻咽喉科の全領域にわたりバラエティに富んだ疾患をしっかりと勉強していただきました。ところでENTONIの2月号、角南貴司子先生編集企画の「特集：“めまい”を訴える患者の診かた」、既にお手元にお持ちでしょうか。私の担当した「難聴とめまいを訴える患者の診かた」の執筆にはいつになく力が入りました。日常めまい診療でよくある間違いは、突発性難聴のあとにめまい発作がおこるとメニエール病の発症、メニエール病の経過中にめまい発作があるとメニエール病の再発、という早合点です。その点を力説しておりますのでご参考にしていただき、日常めまい診療に潜む「引っかけ問題」に引っかけられないよう、明日からのめまい診療をお楽しみください。肌寒い日が続きますが、暖かくして良い週末をお過ごしください。



2022年2月24日



本日、第4回奈良臨床遺伝セミナーがZoomウェビナー(19:00~20:10)で開催されました。

当科から森本千裕診療助教が難聴の遺伝学的検査の最新情報と、奈良県立医科大学での難聴の遺伝学的検査の実施状況について報告しました。難聴の遺伝学的検査が保険適応となってから10年が経過し、遺伝学的検査は難聴の原因検索に無くてはならないツールのひとつとなっています。

デュシェンヌ型筋ジストロフィーの病態・診断と最新治療を兵庫医科大学 小児科学 主任教授 竹島泰弘先生の話も、患児の希望の光となる貴重なご講演でした。腫瘍内科の岡崎先生のがん遺伝子パネルのご講演も勉強になりました。

お声かけ頂いた神経内科の杉江教授、総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門の西久保病院教授に深く御礼申し上げます。



2022年2月25日

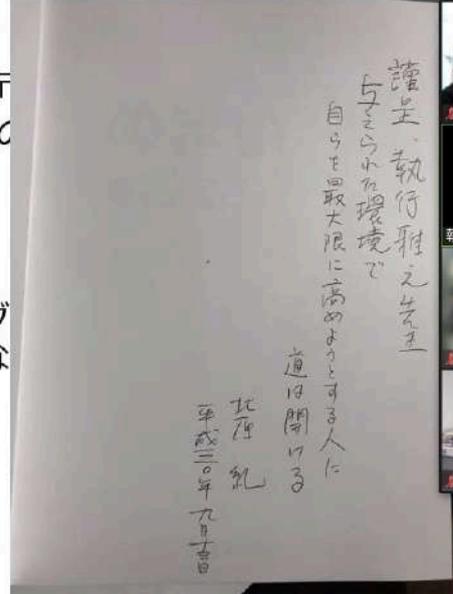
奈良医大に入るまで



市立吹田市
阪大病院の



シーリング
行く先がな



Zoom ミーティング

Zoom Meeting controls: minimize, maximize, close



本日、後期研修医として3年間にわたり奈良医大耳鼻咽喉科を支えてくれた執行雅之先生の送別会をWebにて施行しました。執行先生はこの3年間で英語の論文もacceptされ、また、前期研修医の教育のサポートをしてくれたり、遅くまで病院に残り病棟業務をしっかりとおこない患者様から信頼されるDrに成長してくれました。特に、奈良医大のコロナ診療において、耳鼻科医の中心的役割をしてくれました。3月からは地域の基幹病院である市立奈良病院で耳鼻咽喉科全般の患者様を担当いただき、どんどんスキルアップを行っていただく予定です。今後も奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科は、メンバーも少しずつ入れ替わり、心機一転、気持ちを切り替えて診療に当たれるようにしていきます。



2022年3月1日



本日からいよいよ年度末。3月は『耳の日』がありますので耳鼻咽喉科月間に制定されています。耳鼻咽喉科医にとってとても重要な月です。

日耳鼻の調べでは「難聴」はほとんどの方が耳鼻科に行くと回答したのに対して「めまい」は耳鼻科と回答した方は余裕で半数を下回りました。

ということで患者さん向け「めまいも難聴も耳鼻咽喉科が診ます」と題して奈良県医師会HPから動画配信させていただきます。今月いっぱいの視聴となります。よろしく願いいたします。

http://nara.med.or.jp/for_residents/12991/



2022年3月1日



本日（2022年3月1日）より耳鼻咽喉・頭頸部外科検査部門に言語聴覚士の宮崎優里さんが新しく仲間入りしてくれました。これで当科検査部門は言語聴覚士4名（1名育児休暇中）、臨床検査技師1名の体制となりました。当科検査部門は聴覚検査、平衡機能検査の多くを網羅しており慣れるまでは大変だと思いますが、一人前の言語聴覚士となり当科を支えてもらうべく指導・支援していきたいと思ひます。



2022年3月3日



The 31st Annual Meeting of the Japan Society for Head and Neck Surgery

第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

HOME
会長挨拶
プログラム
演題募集
参加者へのご案内
宿泊案内
託児所のご案内

外科医療の最適化

会長 猪原 秀典
大阪大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

2021年
2/18(金)~19(土)
コングレ
コンベンションセンター

演題募集期間・2020年8/20(金)-10/15(金)

Information
2020.03.31 ホームページを開発いたしました。

主催 大阪大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
運営事務局 株式会社メディプロデュース 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-35-8F
Phone: 03-5775-2075 FAX: 03-5775-2076 E-mail: jshns31@mediproduce.com



新型コロナ禍により昨年中止となり二年振りの開催となった第31回日本頭頸部外科学会が2022年3月3日-4日にグランフロント大阪のコングレコンベンションセンターで執り行われています。

当科としましては外科マスターの上村裕和先生による朝一教育セミナー・耳下腺手術からの開始となりました。

主催された大阪大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。



2022年3月4日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の新5回生1週ポリクリ総括でした。症例総括は内リンパ嚢への手術操作を邪魔する血管走行のある難治性メニエール病、石灰化が激しくいくつかの術中判断を迫られる鼓室硬化症、頸部腫瘍の鑑別診断と治療選択。耳鼻咽喉科の異なる領域の非典型的で考えさせる症例をしっかり勉強していただきました。

オミクロン株の蔓延に加え、不安定な世界情勢に対しても心配は尽きません。まったく浮かない週末になりそうです。



2022年3月7日



本日より令和4年度の臨床統合講義が始まりました。初日は北原による『耳鼻咽喉科総論』『耳鼻咽喉科とめまい』に引き続き、大阪ボイスセンターからお越しいただいた望月隆一非常勤講師による『耳鼻咽喉科と音声言語医学』の3限連続の対面講義となりました。

新型コロナへの感染対策から、座席前方を空け一人おきの着席としました。講義はPDF、YouTubeで復習できます。めまいと音声という興味深い分野を、是非ご堪能ください。



2022年3月11日



第34回日本喉頭科学会が佐賀大学・倉富勇一郎会長の下、ホテルニューオータニ佐賀で開催されました。学会テーマを「地方からの創出」として喉頭科学の専門家が集いました。

当科関連からは近畿大学奈良病院・家根旦有教授が「再発性喉頭乳頭腫に対するHPVワクチン効果」、大阪回生病院・蓮川昭仁医師が「甲状腺Ⅰ型/声帯内自家脂肪注入術と披裂軟骨内転術の治療成績」を報告しました。

喉頭麻痺の治療法はいくつかの選択肢がありますが、明確な診療アルゴリズムが存在しません。勿論、喉頭専門家各人においてこのような症例にはこのような治療をする、という決まり事はあるでしょう。この発表は診療アルゴリズムの確立を目指すものであり、今後の研究の発展に期待したいと思います。



2022年3月13日



昨年は新型コロナ禍で中止となったThyroid Cancer Network研究会が、橿原商工経済会館にてWEB開催されました。

岩倉真也先生が市立奈良病院の症例から「レンパチニブ投与症例」について、太田一郎先生が近大奈良病院の症例から「重複癌を伴う再発転移性甲状腺癌の病勢コントロールの工夫」について、報告いただきました。

特別講演として淡海医療センターから森谷季吉副院長をお招きして、「甲状腺癌の治療戦略～手術から薬物治療まで～」をお話しいただきました。



2022年3月14日

耳石器機能検査としての 眼球反対回旋検査の 妥当性と信頼性の検証

耳鼻咽喉・頭頸部外科



本日は2回生のリサーチクラークシップの院内発表会が、感染症拡大防止の観点によりオンラインで開催されました。昨年度は実習が行えず座学のみでしたが、本年度は2名の耳鼻科研究室配属の学生が1月4日から2カ月間実習を行いました。

リサーチクラークシップでは研究立案、データ収集、データ解析、スライド作成、発表という一連の流れを実習します。

本年度のテーマは「耳石器機能検査としての眼球反対回旋検査の妥当性と信頼性の検証」でした。健常者を対象に新たな機器を利用した検査の妥当性と信頼性を検証しました。2名の学生は10分間の発表と質疑応答をスムーズに行い実習を終えました。

学生のうちから研究の楽しさや大変さを経験することができたのではないかと思います。今後も当科では様々な取り組みを通して学生教育に力をいれていきます。



2022年3月18日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は今年度最後の新5回生1週ポリクリ総括でした。症例総括は慢性中耳炎に対する鼓室形成術、あとは舌腫瘍、耳下腺腫瘍、前頸部腫瘍、鎖骨上腫瘍。腫瘍・腫瘍は細胞診、エコー、CT、MRI等の画像診断である程度鑑別をつけ、治療方針を立てていくわけですが、しっかり考察してくれました。

4月から専攻医が4名、新たに仲間入りしてくれます。せっかくですので、オミクロン株と世界情勢に関して明るい新年度を迎えたいものです。

良い週末、三連休をお迎えください。



2022年3月25日

7th East Asian Symposium on Otology
March 25(Fri), 26(Sat), 2022 Online only
EASO 2022 in Tokyo
President
Prof. Hiromi Kojima, MD
The Jikei University School of Medicine

15:00-16:00 Special Program 5

Room 1

Vestibular Disease

Chairs: Pa-Chun Wang

Cathay General Hospital, Taipei, Taiwan

Tetsuo Ikezono

Saitama Medical University Hospital, Saitama, Japan

SP05-1 Effect of intratympanic dexamethasone combination with gentamicin in Meniere's disease

Sung Huhn Kim

Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea

SP05-2 Vestibular rehabilitation for prolonged dizziness of BPPV and Meniere's disease

Tadashi Kitahara

Department of Otolaryngology, Nara Medical University, Kashihara, Japan

SP05-3 Characteristics of vestibular symptoms of perilymphatic fistula cases

Han Matsuda

Saitama Medical University, Saitama, Japan

SP05-4 Niigata PPPD Questionnaire as a screening tool of Persistent Postural- Perceptual Dizziness (PPPD)

Arata Horii

Niigata University, Niigata, Japan

2022年3月25日、26日にかけて、慈恵会医科大学の小島博己会長の下、7th East Asian Symposium on Otology (EASO)がonline開催されています。

2008年にYonsei大学のWon Sang Lee先生が創始され、2年ごとに開催されるアジアにおける耳科学の国際学会です。

本日午後VIDEO講演になりますので、あらすじと参考文献を下に記します。

あらすじ：

BPPVおよびメニエール病のうち発作期でもないのに執拗な浮動感を呈する症例は、20-30%に耳石器半規管障害が存在するため、前庭リハビリテーションによる追加治療を考慮する必要がある。

参考文献：

Kitahara-T, et al: *Auris Nasus Larynx* 46: 27-33, 2019.

Kitahara-T, et al: *Auris Nasus Larynx* 46: 186-192, 2019.

Shiozaki-T, et al: *Front. Neurol* 12: e656157, 2021.



2022年4月1日



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座は新しい4人の先生を迎えて新年度のスタートを切ることになりました。景山魁先生、石田千恵先生、衣川博貴先生、吉田憲司先生、それぞれ個性豊かでやる気もみなぎっております。

新しい先生方のパワーにひっぱられながら、医局員一同、これからも臨床、研究、教育に精進して参りたいと思います。



2022年4月1日



奈良医大の主たる関連病院の一つであるベルランド総合病院@堺市中区は、新たに今井貴夫先生を迎え充実した2022年度がスタートしています。

頭頸部外科は三上慎司部長と木村直幹医長により既に盤石でしたが、めまい難聴のスペシャリストである今井貴夫センター長の着任で、患者様にとってオールマイティな耳鼻咽喉科体制が確立しました。

また、耳鼻咽喉科医を目指す医大生、初期研修医の研修、耳鼻咽喉科専門医を目指す専攻医の研鑽にとっても理想的な施設になったと言えます。

ご期待ください。



2022年4月5日



奈良医大の主たる関連病院の一つである日本生命病院@大阪市西区は、昨年より笠山宗正先生から立花 功先生に院長交代があり、新体制で邁進されています。

耳鼻咽喉科は小泉敏三部長が、頭頸部外科は金澤成典副部長が統括して頑張っています。



2022年4月8日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は今年度最初の5回生1週ポリクリ総括でした。症例総括はめまい手術、口腔咽頭手術、頭頸部がん手術と、耳鼻咽喉・頭頸部外科が担当する領域の広さを特徴づける内容になりました。

私の右手：いよいよ4月14日木曜から秋のめまい学会の演題募集が開始されます。私の左手：また4月15日金曜にはマキノ出版「めまいは頭を高くして寝ると治る」が発刊されます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

個人的には松山選手、大谷選手が気になる週末です。安心安全で楽しい週末をお過ごしください。



2022年4月14日



奈良医大の主たる関連病院の一つである大阪回生病院@新大阪は、耳鼻咽喉科・芝埜 彰先生、めまいセンター・藤田信哉先生、大阪ボイスセンター・望月隆一先生がそれぞれの分野を統括しています。その立地条件の良さから、全国から患者さんを集めることができる魅力的な病院です。臨床教育にも力を入れていて、今月は奈良医大の学生さんがポリクリ実習に来ています。

2022年4月20日



Article

Role of Human Papilloma Virus and Lifestyle Factors in Overall Survival of Patients with Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma

Daisuke Nishikawa ^{1,2}, Nobuhiro Hanai ^{2,*}, Taijiro Ozawa ³, Tadashi Kitahara ¹ and Yasuhisa Hasegawa ⁴

- ¹ Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 840 Shijocho, Kashihara 634-8522, Nara, Japan; daidaidai@gmail.com (D.N.); tkitahara@narmed-u.ac.jp (T.K.)
- ² Department of Head and Neck Surgery, Aichi Cancer Center Hospital, 1-1 Kanokoden, Chikusaku, Nagoya 464-8681, Aichi, Japan
- ³ Department of Otolaryngology, Toyohashi Municipal Hospital, 50 Hakken-Nishi, Aotakecho, Toyohashi 441-8570, Aichi, Japan; ozawa-taijiro@toyohashi-mh.jp
- ⁴ Department of Head and Neck Surgery, Asahi University Hospital, 3-23 Hashimotocho, Gifu 500-8523, Gifu, Japan; yhasegawa@dent.asahi-u.ac.jp
- * Correspondence: hanai@aichi-cc.jp

Abstract: *Background:* Patients with human papillomavirus (HPV)-associated oropharyngeal squamous cell carcinoma (OPSCC) have a significantly better treatment response and overall survival (OS) rates than non-HPV-associated OPSCC. *Objectives:* We conducted the present study to further characterize the interplay between lifestyle risk factors, which are not only HPV status, but also smoking history and alcohol consumption, and the OS to optimize the treatment of patients with OPSCC. *Materials and Methods:* Between January 2006 and December 2013, 94 patients newly diagnosed with OPSCC were treated with curative intent at Aichi Cancer Center Hospital (Nagoya, Japan). To determine negative prognostic factors associated with the OS, univariate and multivariable Cox regression analyses were performed. *Results:* Of the 94 OPSCC patients, 53 (56.4%) were positive for HPV. The univariate analysis revealed that T classification, smoking history, alcohol consumption, and HPV status were significant determinants of the OS. In the multivariate analysis, adjusted for the clinical stage, smoking history, alcohol consumption, HPV status, and a smoking history of >10 pack-years was an independent negative prognostic factor for the OS among patients with OPSCC (HR: 10.4, 95 %CI: 1.34–80.6, $p < 0.05$). *Conclusions:* Smoking is a very important negative prognostic factor even in cases of HPV-associated OPSCC. The impact of smoking needs to be reaffirmed when deciding on treatment plans and de-escalation trials in OPSCC, even in cases of HPV-associated OPSCC.

Keywords: oropharyngeal squamous cell carcinoma; HPV; smoking history; alcohol consumption



Citation: Nishikawa, D.; Hanai, N.; Ozawa, T.; Kitahara, T.; Hasegawa, Y. Role of Human Papilloma Virus and Lifestyle Factors in Overall Survival of Patients with Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma. *Medicina* **2022**, *58*, 557. <https://doi.org/10.3390/medicina58040557>

Academic Editor: Shogo Shinohara

Received: 7 March 2022

Accepted: 13 April 2022

Published: 18 April 2022

当科では頭頸部外科医を志す者に、医大および関連施設での修練は当然のこととして、積極的に国内留学の機会を与えています。先方が得意としている手術手技を学ぶこと、先方が手掛けている臨床研究に参加し論文発表すること、この2つを経験して欲しいからです。

現在、近畿大学奈良病院で活躍中の西川大祐先生は、愛知県がんセンターへの国内留学中から手掛けていた“Role of Human Papilloma Virus and Lifestyle Factors in Overall Survival of Patients with Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma”を、長谷川泰久前部長、花井信広部長のご指導の下、このたびMEDICINA誌に発表することが叶いました。

要約：HPV関連中咽頭扁平上皮Kは治療反応性、生存率ともに良好である。今回、中咽頭扁平上皮Kの治療最適化のため、喫煙歴、飲酒歴などのライフスタイル因子について、愛知県がんセンターの中咽頭K94症例を対象に検討した。当該症例の56.4%にHPV陽性であり、多変量解析で喫煙が独立した予後不良因子であった。HPV関連中咽頭扁平上皮Kも同様に、喫煙歴の影響が重要であることが確認された。



2022年4月22日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括でした。症例は慢性穿孔性中耳炎、弛緩部型真珠腫性中耳炎、副鼻腔乳頭腫、甲状腺乳頭K、と耳・鼻・頸部の疾患を万遍なく勉強してもらうことができました。

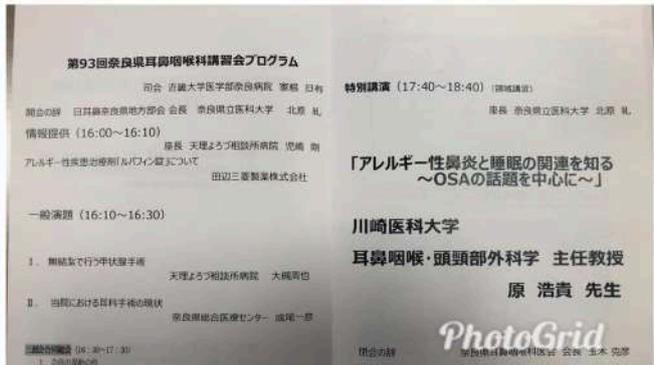
ところで、この秋に奈良市で開催される第81回日本めまい平衡医学会では

- ①めまい学会作成の前庭リハビリテーションの手引きをわかりやすく解説
- ②vHITの保険収載を記念してランチョン/ハンズオンセミナーの木金2回実施
- ③前庭性片頭痛に対する抗体製剤の可能性を頭痛/めまい双方から掘り下げると興味深いところに焦点を当てます。

演題募集は4月14日木曜から開始され、6月9日木曜の締切となっています。来週末からのGWは安心安全にお楽しみいただきつつ、めまい演題登録とめまい学会参加のご予定をご一考いただきたく、お願い申し上げます。



2022年4月23日



令和3年度奈良県耳鼻咽喉科三部会合同総会および第93回奈良県耳鼻咽喉科講習会が、厳樞会館にてコロナ感染対策を徹底しながら開催されました。

講習会では、奈良県総合医療センター耳鼻咽喉科部長の成尾一彦先生が『当院における耳科手術の現状』につき講演しました。特別講演には、川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学主任教授の原浩貴先生をお招きし、『アレルギー性鼻炎と睡眠の関連を知る～OSAの話題を中心に～』として、アレルギー性鼻炎と睡眠障害につきわかりやすく解説いただきました。



2022年5月13日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括でした。症例は中耳炎治療後の2次性真珠腫疑い例、突発性難聴後のメニエール病、舌K再発例、下咽頭K重複例、と既往歴から考えを進めるべき難しい症例を勉強してもらうことができました。

この秋に奈良県コンベンションセンターで開催される「第81回日本めまい平衡医学会」

奈良は行くから おもしろい

いざいざ 奈良

by 鈴木亮平さん

<https://www.youtube.com/watch?v=3TTGD3BKoK4>

是非とも現地にお運びください。

演題募集中です。



2022年5月24日



新型コロナの影響で延期中止になっておりました第6回畝火会ゴルフコンペが、令和4年5月22日日曜日に春日台カントリークラブで3年振りに開催されました。暑すぎず爽やかな絶好のゴルフ日和となりました。レギュラーの部では、圧倒的安定感を誇る山本俊宏先生がまたまた優勝しました。おめでとうございます。まだまだ新型コロナに慎重な姿勢を崩せない中、皆様ホールアウト後は三々五々速やかに帰宅しました。来年は是非、宴会付きで楽しみたいものです。



2022年5月26日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。現在、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会(日耳鼻)総会が神戸ポートピアで開催中です。その関係で今日は木曜ですが5回生1週ポリクリ総括でした。症例は難聴の原因である鼓膜穿孔に対する鼓室形成術、嚙声の原因である喉頭麻痺に対する喉頭形成術、頸部リンパ節腫脹の原因検索とリンパ節郭清術を勉強してもらうことができました。鼓室形成術は真珠腫の疑いもあり鼓室内を確認し、喉頭形成術は術中発声確認のため局所麻酔下で行われました。

日耳鼻総会が神戸で行われているため、担当する委員会やシンポジウムがいくつかありますが、大学での仕事もあるため、この会期中は奈良と神戸を行ったり来たりになりそうです。



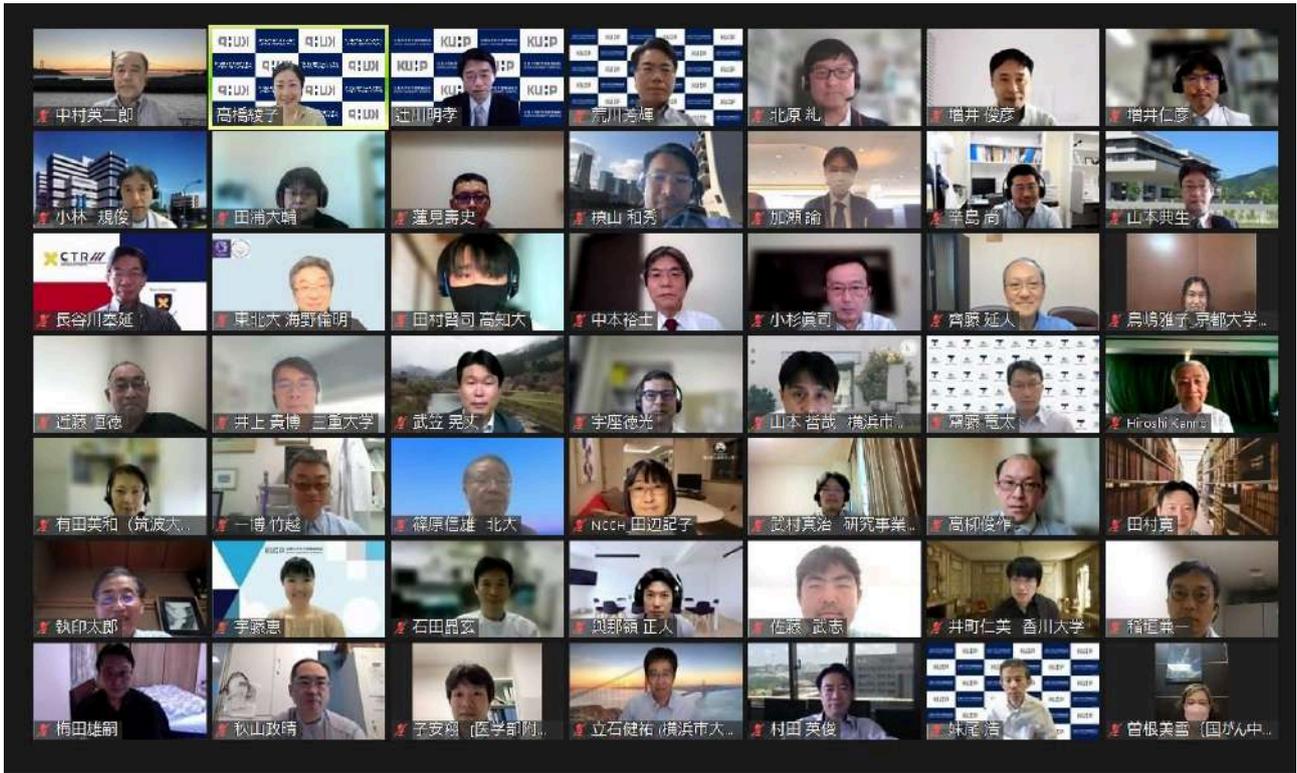
2022年5月28日



今年の第123回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(丹生健一会長)は、予定通りの会期(5月25日水曜-28日土曜)で、神戸ポートピアホテルにて開催されました。最近の新型コロナウイルスの低調な推移に後押しされ、多くの現地参加者で賑わい、活気を感じる学会でした。神戸大学の関係者の皆様方には厚く御礼申し上げます。そうは言うものの、当科関連は各自がまだまだ慎重な姿勢を崩せず、奈良医大と三宮が電車一本で行けることもあり、病院と学会とのバランスを取った参加となりました。北原、山中、上村、西村は各自学会の役目を果たしつつ、全員集合写真や参加者慰労会は来年のお楽しみとして持ち越しとしました。



2022年5月29日



多彩な内分泌異常を生じる遺伝性疾患、von Hippel Lindau病(VHL)の実態把握と診療標準化の研究班が、このたび高知大学泌尿器科の執印太郎先生から京都大学眼科の辻川明孝先生にバトンタッチされ、厚労科研の難治性疾患政策研究事業としてキックオフされました。

この事業に耳鼻咽喉科は内リンパ嚢腫瘍という比較的まれな疾患を対象として、山本典生先生(京都大学)とともに関わるわけですが、良性腺腫としてメニエール病様症状を呈することが多く、見逃されている可能性もあると推察されます。自験例をもって述べさせていただくと、メニエール病と診断された新患者が1025例、うち内リンパ嚢手術を受けた難治性メニエール病患者が182例という期間内に、内リンパ嚢腫瘍は2例という割合でした(耳鼻臨床 106: 852-853, 2013)。

何よりVHLという遺伝性疾患の周知が各科において進んできた現在、眼科の網膜血管腫、脳神経外科/内科の神経血管芽腫の症例の中でめまい難聴が合併している症例、ここに内リンパ腫瘍が隠れている可能性を確認する必要があると言えます。

今後、VHLを取り巻く各科の先生方には情報をお願いすることと存じますが、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2022年6月7日



2022年5月31日をもって、30年もの長い間、奈良県の耳鼻咽喉・頭頸部外科医療を支え、そしてひっぱり続けていただきました山中敏彰先生が御栄転されることとなりました。山中先生はめまい診療のトップランナーとして活躍されており、奈良医大医局員だけではなく、全国に山中先生に師事するドクターもたくさんおります。新天地でのご活躍を祈念し、またこれからも奈良の耳鼻咽喉科医療に新しい目線からのご指導をいただければと思います。



2022年6月10日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括でした。症例は中耳真珠腫の鼓室形成術、上顎洞真菌症の鼻内開放術、IgA腎症の扁桃摘、副甲状腺機能亢進症の摘出術と、耳鼻咽喉科ならではのバラエティに富んだ疾患たちを勉強してもらえました。

しばらく振りに正門前から研究棟跡地を覗いてみると、平らかにならされ囲いも取れスッキリしました。今後の工程が計画通り進んでいくことを祈ります。

皆様、素敵な週末をお迎えください。



2022年6月11日

第37回 耳鼻咽喉科情報処理研究会

Ear-Nose-Throat Informatics Society, JAPAN



会期 ◆ 令和4年6月11日 土

会場 ◆ 新潟大学医学部有壬記念館 2階大会議室
(新潟市中央区旭町通1-757 電話 025-227-2306)

同時オンライン開催

会長 ◆ 堀井 新

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野)

本日午前中から、新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室のご担当により、新潟大学医学部有壬記念館にて、第37回耳鼻咽喉科情報処理研究会がハイブリッド開催されています。当科は午後には研究会が控えており、リモート参加での発表となりました。

「内耳造影MRIから得られる情報によるめまい・難聴疾患分類」

「原因不明のめまい症として紹介された症例の疾患内訳」

耳鼻咽喉科情報処理研究会は1983年より、研究会開催、医療情報学連合大会におけるワークショップの開設、ニフティにおける会議室運営、フリーソフトウェア（耳鼻咽喉科辞書など）配布、耳鼻咽喉科マルチメディア教科書の作成を始めとする様々な活動を続けてきました。長らくこの研究会の立ち上げ、運営にご尽力くださった関係者の先生方に厚く御礼申し上げます。



2022年6月12日

第31回 奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会

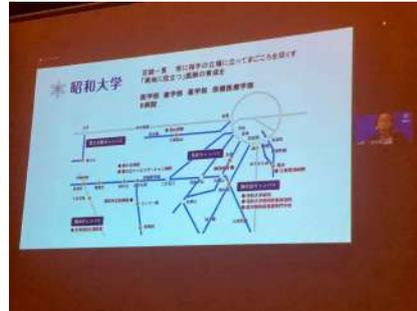
日時：2022年 6月11日(土) 16:50～19:05

形式：ハイブリッド形式

会場：ホテル日航奈良 4F 飛天

奈良市三条本町8-1 TEL: 0742-35-8831

本年は対面、WEB（Zoomウェビナー）でのハイブリット型開催となります。
WEBにてご参加される先生は視聴及び単位取得の手順につきましては、
裏面をご参照頂きます様お願い致します。



本日午後は、第31回奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会が、世話人のみ現地集合、聴講者はweb配信でハイブリッド開催されました。

特別講演1：獨協医科大学埼玉医療センター耳鼻咽喉頭頸部外科・田中康広教授に「中耳手術における最近のトレンドと今後の展望」を現地にて、特別講演2：昭和大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科・小林一女教授に「機能性難聴について」をリモートにて、ご講演いただきました。

いずれのご講演も、奈良県の耳鼻咽喉科医にとって、明日からの臨床に大変有意義な内容でした。ご講演ありがとうございました。



2022年6月18日



2022/06/17-18 第46回日本頭頸部癌学会が、当大学歯科口腔外科の桐田忠昭会長により、奈良県コンベンションセンターで、ハイブリッド開催されました。上村裕和准教授、木村隆浩助教によるシンポジウムをはじめ、当大学、関連病院から多数の医局員が、一般口演およびポスター発表にて参加しました。



2022年6月24日



International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 119 (2022) 111210

Contents lists available at ScienceDirect

International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology

Journal homepage: www.elsevier.com/locate/ijpor

How long do tympanostomy ventilation tubes last in pediatric patients with otitis media with effusion or adhesion? A study using Kaplan-Meier survival analysis

Shintaro Otsuka^{a,b}, Ryosuke Imai^a, Takefumi Kamakura^{a,c}, Hiroshi Nishimura^{a,d}, Yasuhiro Otsu^e, Masashi Furukawa^{f,g}, Toshimichi Yasui^{h,i}, Maki Yamashita^{j,k}, Megumi Nakamura^{l,m}, Yoriko Iwamotoⁿ, Kimi Kanazu^o, Shinichi Yonei^h, Suzuyo Okazaki^o, Masayuki Hirose^o

^a Department of Otorhinolaryngology, Osaka Women's and Children's Hospital, 8-42 Ichihashi, Iwai, Osaka, 594-2305, Japan
^b Department of Otorhinolaryngology, Nara City Hospital, 1-20-1 Higashiokinokubo, Nara, Nara, 630-8508, Japan
^c Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2-2 Yamadaoka, Suita, Osaka, 565-0871, Japan
^d Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, 2-1-14 Honmachi, Chuo-ku, Osaka, 540-8506, Japan
^e Department of Otorhinolaryngology, Nara University of Education, 277-8 (Izumi Higashi), Inakayama, Osaka, 595-8511, Japan
^f Functione ENT Clinic, 2-1 Ohtsuka, Adachi, Tokyo, 409-0950, Japan
^g Naga ENT Clinic, 129-1 Minamimiyayama-cho, Hiratsuka, Osaka, 598-8002, Japan
^h Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Osaka City General Hospital, 2-1-22 Mizokubocho, Midosu-ku, Osaka, 534-0021, Japan
ⁱ Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Higashi-ku City Medical Center, 3-4-1 Nishitani, Higashi-ku, Osaka, 578-8586, Japan

ARTICLE INFO

Keywords:
 Tympanostomy ventilation tube
 Otitis media with effusion
 Kaplan-Meier survival analysis
 Child patients

ABSTRACT

Objective: The purpose of this study was to evaluate the functional duration and survival rate of tympanostomy ventilation tubes and the complications associated with their use in pediatric patients who underwent tube insertion for otitis media with effusion (OME). Complications were analyzed including recurrence and tympanostomy membrane perforation after the tube removal or extrusion.

Methods: Altogether, 447 ears from 234 pediatric patients younger than 15 years of age were studied retrospectively. All patients had undergone long-term tympanostomy ventilation tubes (the Osaka-Tube insertion for OME at the Osaka Women's and Children's Hospital, which is the pediatric specialty hospital) between April 2014 and March 2015. They were typically followed up every 2–4 months or more frequently if necessary due to another ear tube insertion. Subsequently, the tube duration, survival rates of the tube especially at 22 months after insertion defined as “full-term placement”, and the rates of recurrence and perforation were calculated and statistically evaluated.

Results: Of 447 ears, 325 ears from 184 patients underwent their first tube insertion, and 122 ears from 64 patients underwent their second or subsequent tube insertion within the targeted period. Two hundred ears from 100 patients were associated with a OME patient. The survival rate at full-term placement was 53.7%. The recurrence rate was 56.2%, and the rate of the tympanic perforation was 6.2%.

Conclusions: Approximately half of the tubes survived for 22 months. The perforation rate was relatively low; however, recurrence of OME was seen in more than half the ears.

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括でした。症例総括は耳鼻咽喉科ならではの、小児4歳から高齢者78歳まで、炎症性、アレルギー性、良性・悪性腫瘍と、バラエティに富んだ疾患の手術症例をまとめていただきました。耳鼻咽喉科の中でも小児特有な疾患/治療を扱う「小児耳鼻咽喉科」という分野があります。小児の滲出性中耳炎で鼓膜チューブを留置することは、至って日常臨床よくある光景ですが、この鼓膜チューブにはわかっているようでわかっていない事実がたくさんあります。当科から大阪府立母子保健総合医療センターに国内留学していた大塚進太郎先生が、大阪大学・助教の鎌倉武史先生の指導の下、234児447耳を長期にわたり経過観察した力作が、このたび

International Journal of Pediatric Otorhinolaryngologyに掲載されました。お子達のお母様への説明根拠としても役立つ論文ですので、興味ある先生方は是非ご一読ください。突然雨が降ったり、うだるように暑くなったり、なかなか過ごしにくい日々がやって来ましたが、皆様、快適で楽しい週末をお過ごしください。



2022年6月30日



本日を持ちまして、北野公一先生と大山寛毅先生が退職され、それぞれ、奈良市立病院と近畿大学病院に御
栄転されることになりました。北野先生は耳鳴を、大山先生はめまいを専門とし、奈良医大耳鼻咽喉科の発
展に寄与していただきました。今後の活躍を祈念いたします。



2022年7月2日



昨日は第4回軟骨伝導聴覚研究会が、本日は第7回耳鳴・難聴研究会が、どちらも慶應義塾大学にて開催されました。

軟骨伝導聴覚研究会では、西村講師と岡安助教が軟骨伝導補聴器のさらなる発展にむけた報告をおこないました。細井奈良医大学長もかけつけて、非常に活発な議論が行われました。

また、本日の耳鳴・難聴研究会では、山下が拍動性耳鳴の取り扱いについて、市立奈良病院に転勤になったばかりの北野医師が大学院時代の基礎研究である、漢方薬の耳鳴モデルラットへの影響について報告いたしました。



2022年7月6日



7月1日より大塚進太郎先生が市立奈良病院より復帰しました。大塚先生は大学では、専門としている小児耳鼻咽喉科、聴覚だけでなく、神経耳科、鼻副鼻腔疾患など、耳鼻咽喉科一般診療にも注力していただく予定です。

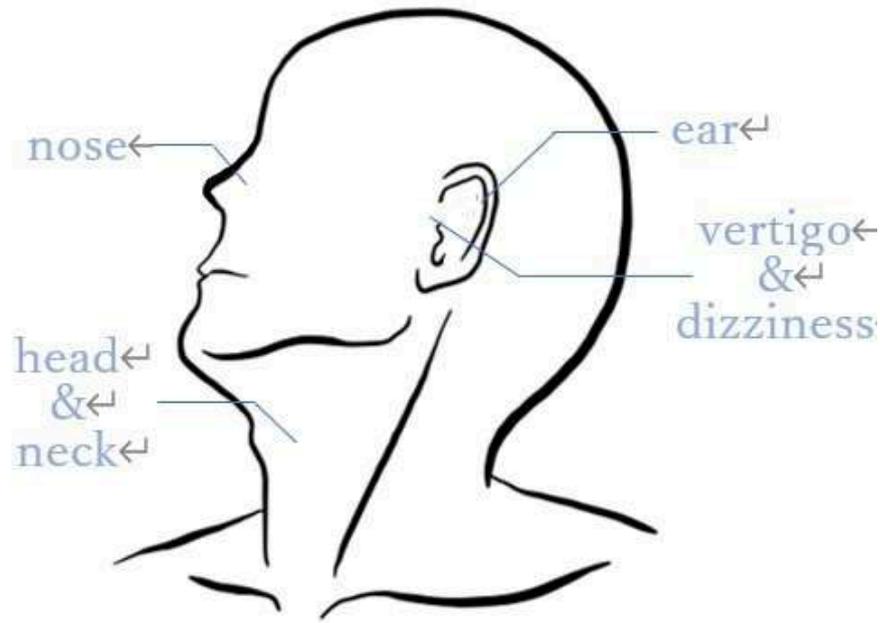


Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2022年7月6日



Department of Otolaryngology-
Head and Neck Surgery,
Nara Medical University



奈良県立医科大学 ←

耳鼻咽喉・頭頸部外科 ←

令和4年度 医局説明会

2022/8/3(水) 18時～ ←

場所：耳鼻咽喉・頭頸部外科医局 ←

連絡先：orl@naramed-u.ac.jp ←

医局（内線 3435）もしくは担当の山下まで ←

本年度の医局説明会を2022年8月3日(水) 18:00から医局において開催させていただきます。

対象は初期研修医・医学生となっておりますが、後期研修医や奈良医大耳鼻咽喉科と一緒に働きたいと考えている先生方も大歓迎です。参加希望の方は耳鼻科医局（内線3435）にご連絡いただければ幸いです。なお、遠方の方でwebでの参加をご希望される方は前日までに耳鼻咽喉科医局までご連絡お願いいたします。

（担当：山下）



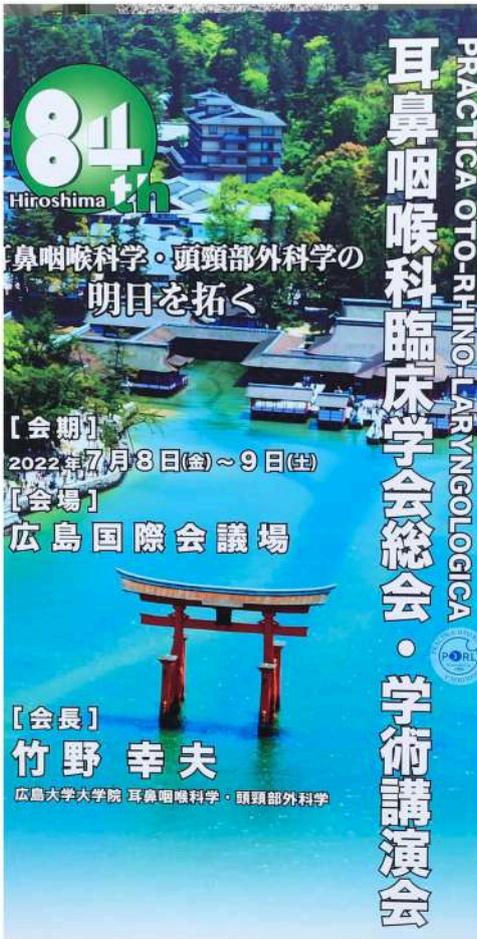
2022年7月8日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週は第84回耳鼻咽喉科臨床学会のため広島入りしておりますゆえ、ベルランド総合病院めまい難聴センターの今井貴夫先生に5回生1週ポリクリ総括をお任せしました。よろしくお願ひします。



2022年7月9日



第84回耳鼻咽喉科臨床学会が広島で開催されました。

当科からは北原教授のパネルディスカッション以下、大学からは3題、関連病院からは5題を報告させていただきました。



2022年7月12日

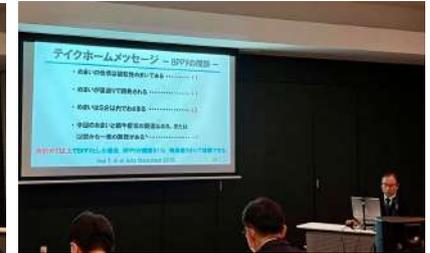


「奈良県 難聴児のきこえとことばの勉強会」の第1回を開催しました。奈良県で子どものきこえとことばに携わっている多施設・多職種間の交流を目的にしたものです。今回は近畿大学奈良病院、高井病院、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立ろう学校（あいうえお順）からご参加いただきました。

今後も定期的に開催予定です。



2022年7月14日



本日は大阪堺市のベルランド総合病院にて「泉北耳鼻咽喉科セミナー2022」が、2年半振りにハイブリッド開催されました。ベルランド総合病院は三上慎司部長をはじめ常勤医4名体制で頭頸部外科分野を中心として発展して来ましたが、今年度からめまい難聴センターが新設され、今井貴夫センター長を含めた5名で耳鼻咽喉科全領域に対応しています。

今年の特別講演は、今井貴夫センター長が「めまい・難聴疾患、アレルギー性鼻炎の診断と手術治療、保存的治療」についてお話いただきました。セミナーはハイブリッド開催なので、例年より多くの先生方にご視聴いただきました。

セミナー終了後、過去、現在、未来のベルランド病院耳鼻科をアクリル板越しに語り合う会が催されました。



2022年7月16日

第38回 奈良県頭頸部腫瘍研究会

日時：令和4年7月16日（土） 16時30分～
配信：オンライン配信

☆専門医単位、耳鼻咽喉科領域講習（1時間1単位）の日本耳鼻咽喉科学会の認定を受けておりますので、耳鼻咽喉科の先生は講習時間の確認のため、ログイン管理をさせていただきます。日耳鼻学会参加報告票の受付はございません。

**※耳鼻咽喉科の先生は必ず、
「日本耳鼻咽喉科学会会員番号」も入力してください。
(0から始まる7桁の番号)**

☆日本医師会生涯教育講座（奈良県医師会発行）の認定を受けております。



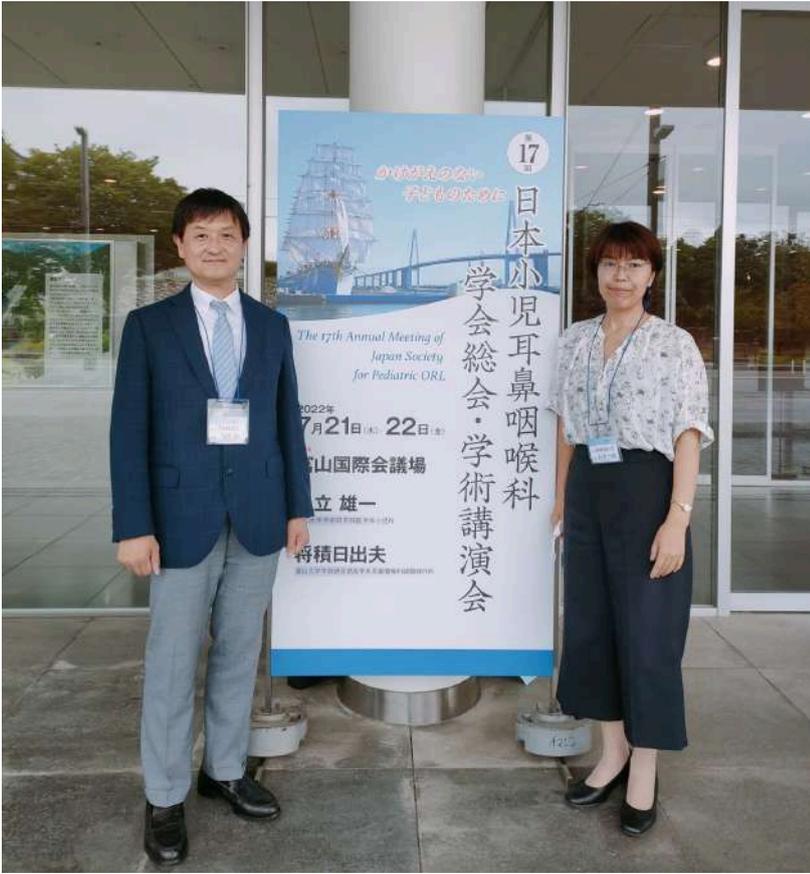
令和4年7月16日、ホテル日航奈良にて、第38回奈良県頭頸部腫瘍研究会がハイブリッドWEBセミナー形式で開催されました。

恒例「2021年・奈良県頭頸部癌患者受診実態」については近畿大学奈良病院の太田一郎講師に、一般演題「甲状腺乳頭癌における再発危険因子の検討」については当科の榊井貴史学内講師に発表いただきました。最後に「頭頸部癌診断・治療のトピックス～日常診療から感じた疑問を解明する～」について、この春より近畿大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科に赴任された安松隆治主任教授にご講演いただきました。

本研究会は新型コロナの影響を受け、一昨年前から1月開催にずれ込んでいましたが、日耳鼻が7月を頭頸部外科月間に制定したこともあり、今回から再び7月に戻しての開催となりました。来年も同時期開催の予定ですので、ご参集よろしくお願い申し上げます。



2022年7月22日



第17回小児耳鼻咽喉科学会

総会・学術講演会が2022年7月21日-22日の日程で、富山国際会議場で行われています。当科からは、北原紘教授が平衡嚙下セッション座長を務め、森本千裕診療助教が側頭骨腫瘍の症例報告を行いました。

富山国際会議場は富山城を目の前に据え、富山駅から徒歩15分の魅力的な立地にあります。コロナ禍に参加者に優しい学会運営をしてくださった富山大学耳鼻咽喉科、小児科の関係者の皆様、ありがとうございました！



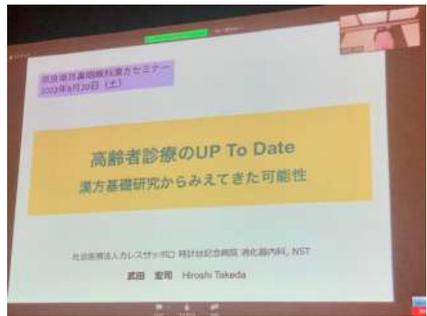
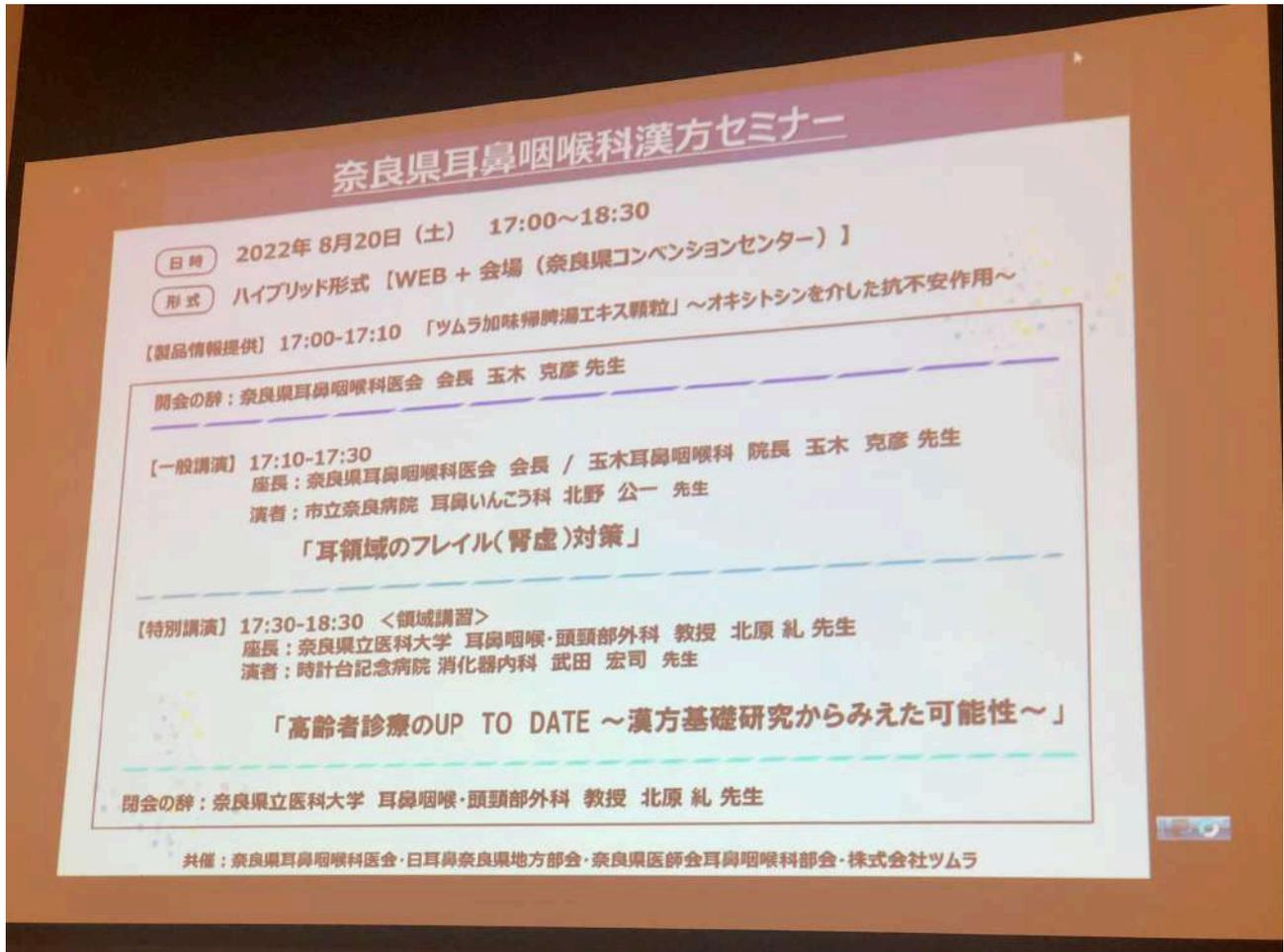
2022年7月28日



今年も臨床解剖実習が7月27日に解剖実習室で行われました。今回は市立奈良病院の先生も含め多くの先生方に参加いただき、頭頸部チームと側頭骨チームに別れて実習を行いました。頭頸部は上村准教授の、側頭骨は西村講師の直接指導を受けながら、普段は見る事がない深部や細部の解剖に触れることができ、貴重な実習となりました。実習期間は来月初めまで、まだまだ続きます。実施に際しまして、第一解剖学、第二解剖学、脳神経外科学教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



2022年8月21日



昨日8月20日土曜、奈良県コンベンションセンターにて奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナーが開催されました。新型コロナウイルスの影響を考慮してハイブリッド開催となりましたが、会場前の特設スケートリンクは家族で賑わい、コロナ明けが感じられました。

一般講演は市立奈良病院の北野公一先生に「耳領域のフレイル(腎虚)対策」、特別講演は北海道大学名誉教授の武田宏司先生に「高齢者診療のup to date ~漢方基礎研究からみえた可能性~」をご講演いただきました。

漢方伝来の地である奈良県において、今後も基礎と臨床の両面から漢方治療のエビデンスを深めていくことができれば幸いです。来年は通常形式で開催できることを期待します。

2022年8月22日

第1588号

(第3種郵便物認可)

THE MEDICAL & TEST JOURNAL



教えてください

北原 紘氏

(奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授)

「平衡機能検査士」への期待

めまいのチーム医療に参画を

日本めまい平衡医学会が今年度から「平衡機能検査士」の認定制度を開始しました。半世紀以上の長きにわたって続けている検査技術講習会の修了者を審査の上、認定する仕組みで、臨床検査技師、言語聴覚士、看護師の3職種を対象としています。制度開始にはどのような背景や狙いがあるのでしょうか。担当理事の北原紘氏（奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授）に伺いました。

(MTJ編集部)

奈良医大めまいセンターでも臨床検査技師、言語聴覚士、看護師の方々にめまいに関する諸検査をお願いすることで、正確な診断と適切な治療を提案しております。このめまいに関する諸検査というのが、手技的に修練が必要であったり、原理を理解することが難しかったりします。

そこで日本めまい平衡医学会では、毎年夏に開催される平衡機能検査技術講習会の受講者(座学と実技)に対して修了証を発行し、一段上の学会認定:平衡機能検査士を目指していただくことになりました。今年は神戸大学で開催され、日本初の検査士が誕生します。

詳しくはMedical & Test Journal紙: 8月21日号、もしくは日本めまい平衡医学会HP: <https://www.memai.jp/>参照。

一人でも多くのめまい患者さんが、医師と検査士の協働で正確な診断と適切な治療に導かれることを期待します。

2022年9月1日

奈良市内ホテルマップ

ホテルリスト

1. 奈良ロイヤルホテル ※学会HPから予約可	9. 御宿野乃奈良	17. HOTEL 花小路
2. JW マリオットホテル奈良	10. 奈良ワシントンホテルプラザ	18. 変なホテル奈良
3. ホテルアジュール奈良アネックス	11. スーパーホテル JR 奈良駅前・三条通り	19. アパホテル近鉄奈良駅前
4. 東横 INN 奈良新大宮駅前	12. 天然温泉スーパーホテルLohas・JR 奈良駅	20. 奈良ホテル
5. スーパーホテル奈良・新大宮駅前	13. AB ホテル奈良	
6. ホテル日航奈良 ※学会HPから予約可	14. コンフォートホテル奈良 ※学会HPから予約可	
7. ピアッツァホテル奈良	15. スマイルホテル奈良	
8. ダイワロイネットホテル奈良 ※学会HPから予約可	16. 東横 INN 近鉄奈良駅前	



いよいよ本日から9月に入り、奈良医大主催の日本めまい平衡医学会まで2ヶ月半となりました。ライブ配信なしの現地開催を予定していますので、ご遠方の先生方にホテルマップとぐるっとバスをご紹介させていただきたいと思えます。

奈良県は宿泊施設が十分ではございません。学会HPでは本日9月1日10時00分から10月25日23時59分まで予約を受け付けております。下記URLをご参考ください。<https://gakkai.co.jp/memai81/accommodation/>

学会場である奈良県コンベンションセンターに隣接したホテルはJWマリオットですが、それ以外のホテルもぐるっと周遊バスが30分間隔で運行されますので大丈夫です。早めにご予約ください。



2022年9月4日

第 37 回奈良悪性リンパ腫談話会

謹啓
時下、先主方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、下記の要項の通り、『第 37 回奈良悪性リンパ腫談話会』を開催することになりました。
ご多忙の所宜に恐縮ではございますが、ご視聴賜りますようお願い申し上げます。

謹白

当番世話人：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 礼

日時：令和 4 年 9 月 3 日（土） 15：00 より

場所：現地会場と web 配信（zoom）によるハイブリッド開催

配信／現地会場：奈良ロイヤルホテル ロイヤルホール
〒630-8122 奈良県奈良市法華寺町 254-1

＊現地参加につきましては、参加費 1,000 円を徴収させていただきます。

15:00～15:10 ミニレクチャー
『 当院での同種末梢血幹細胞採取時のゼーラスト使用経験 』
天理よろづ相談所病院 血液内科 部長 赤坂 尚司 先生

15:10～16:00 一般講演
座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 准教授 上村 裕和 先生
『 t (11:14) 転座を認めないマンデル細胞リンパ腫とリンパ形質細胞性リンパ腫の併存例 』
天理よろづ相談所病院 血液内科 高橋 佑輔 先生
『 非典型的な病理像を呈し、病型分類に苦慮した濾胞性リンパ腫 』
奈良県立医科大学附属病院 呼吸器・アレルギー・血液内科 内原 正人 先生

16:00～17:00 特別講演
座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 礼 先生
『 悪性リンパ腫と耳鼻咽喉科 』
演者 福島県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座 教授 室野 重之 先生

＊当日は、ご参加いただいた皆様のために、ご講演名、ご所属名のご記載をお願い申し上げます。なお、ご記載いただいた資料は奈良県および関係する関係機関のために利用させていただきますことがございます。また当該情報は弊社から共有の奈良悪性リンパ腫談話会に提供させていただきます。ご同意いただけるようでしたらご参加ください。同様にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



昨日午後、第37回奈良悪性リンパ腫談話会が、喫茶から落水の見える奈良ロイヤルホテルで開催されました。奈良県立医科大学・放射線腫瘍医学の長谷川正俊先生退官後は、奈良県総合医療センター・血液腫瘍内科の八木秀男先生を中心に、病理診断学、呼吸器内科学、小児科学、皮膚科学、腫瘍センター、そして耳鼻咽喉・頭頸部外科学が集まり、執り行われています。

当番世話人である当科から特別講演として、福島県立医科大学の室野重之教授をお招きし、「悪性リンパ腫と耳鼻咽喉科」についてご講演いただきました。



2022年9月9日



2022年9月8～9日にかけて、岡山県倉敷市の倉敷市民会館にて、川崎医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 原 浩 貴会長の下、第35回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会が開催されました。

初日、当科関連・ベルランド総合病院の田中瑛久先生が、ミレニアルセッションU-40「新時代の口腔咽頭科学を担う！」と題した若手シンポジウムのシンポジストとして選ばれ、「頭頸部癌に対する咽喉頭全摘術後の遠隔転移予後因子の検討」を口演しました。翌日のパネルディスカッションでは、当科・頭頸部外科マスターの上村裕和先生が、「耳下腺手術のスキル向上～今を見つめ未来を目指す」にて、「耳下腺局所進行癌に対する手術治療」を口演しました。

口腔および咽頭は耳鼻咽喉科の中でも境界領域の位置する分野ですので、当科として今後も引き続き力を入れていきたい学会と考えます。



2022年9月9日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は夏休み明け、2ヶ月振りの5回生1週ポリクリ総括でした。症例総括は耳鼻咽喉科の王道、耳と鼻の手術症例、真珠腫性中耳炎、人工内耳、鼻中隔湾曲症、副鼻腔腫瘍をしっかりとめ、めまい救急クルズスのトリアージ症例もしっかり考察してくれました。世界情勢もなかなか落ち着かない中、英国国民にとって勇気、愛、優しさの圧倒的象徴であったエリザベス女王が、本日崩御されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2022年9月22日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日金曜が祝日なので本日木曜を5回生1週ポリクリ総括としました。シルバーウィークの影響で3日間のポリクリは物足りなかったかも知れません。耳鼻咽喉科医の皆様の手元に『美蕾』9月号が届いている頃かと存じます。今年の日本めまい平衡医学会まで2ヶ月を切りました。学会内容と奈良見所が掲載されておりますのでご覧ください。宿泊案内とvHITハンズオンは学会HPをご参照ください。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

<https://gakkai.co.jp/memai81/>



2022年10月3日



奈良医大の主催させていただく第81回日本めまい平衡医学会が、いよいよ来月11月16日水曜-18日金曜に迫って参りました。本日10月3日月曜から学会HPより事前参加登録が開始されましたので、ここにアナウンスさせていただきます。

<https://gakkai.co.jp/memai81/registration/>

時節柄、オンライン事前参加登録のみとなりますのでご注意ください。事前参加登録され現地ご来場いただいた先生方に、奈良市ならまちのかき氷専門店「ほうせき箱」さんのかき氷をお楽しみいただきます(先着順)。

<https://www.facebook.com/housekibaco/>

<https://twitter.com/housekibaco?lang=ja>

<https://www.instagram.com/housekibaco/>

勿論、学術講演会がメインでございます。主題は「めまいの原因を紐解く」。めまい患者さんに病名を付けられない悶々とした日常診療にお別れするため、是非ご参加ください。



2022年10月4日



第37回日本植生史学会大会・日本花粉学会第63回大会が令和4年10月1日・2日に奈良文化財研究所にて開催され、公開シンポジウムにて山下学内講師が「奈良における花粉症と治療の現状」につき講演いたしました。

「奈良の森と花粉と人のいま・むかし」がテーマのシンポジウムで、奈良や近畿における民俗学的な森林利用、また花粉飛散の現状や花粉症に関する臨床的問題などが議論されました。



2022年10月7日



2022年10月6日7日と、やまぎん県民ホール、山形テルサで『第67回日本聴覚医学会総会・学術講演会』が開催されています。当科からは西村講師、岡安助教、森本診療助教、大塚診療助教、済生会中和病院から赤坂先生、関連施設の大阪大学基礎工学研究科から下倉准教授が補聴、聴覚基礎領域の6演題の報告を行っています。研修医の川崎先生も学会に参加しており、初めての学会の空気を私達と一緒に楽しんでくれています。

山形は奈良に比べて気温が10度ほど低く、かなり肌寒く感じます。今回の学会は基本現地開催なので参加者のほとんどが会場に足を運んでいます。

学会を開催くださっている山形大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の欠畑教授はじめ教室員の先生方、関係者の皆様のご尽力に感謝いたします。



2022年10月7日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の5年生1週ポリクリ総括ですが、今回は特別ゲストとして近畿大学奈良病院の家根旦有教授とのジョイントで開催されました。家根先生、お忙しいところありがとうございました。

奈良医大の主催させていただく第81回日本めまい平衡医学会が、いよいよ来月11月16日水曜-18日金曜に迫って参りました。先日の事前参加登録に引き続き、vHITハンズオンの参加ご予約も開始されました。木曜定員18名、金曜定員24名を無料でご用意しております。

vHITは左右6本の半規管すべての機能を評価でき、前庭リハビリテーションの治療効果を評価できる医療機器として、本年4月に保険収載されたばかりです。是非、貴院における平衡機能検査機器の一つとして、原因不明のめまい撲滅に向けてご検討ください。木曜と金曜、ご都合の良い日をお選びいただき、ランチョンで座学を、ハンズオンで実技を勉強して帰ってください。詳しくは学会HPをご参照ください。

<https://gakkai.co.jp/memai81/hands-on/>



2022年10月14日

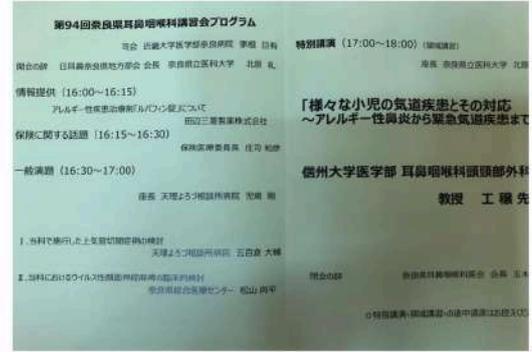


10月13-14日にかけて、International Association of Phonosurgery (IAP) 2022が、京都府立医大・平野 滋会長の下、ウェスティン都ホテル京都で開催されました。

当科関連からは、望月隆一先生の指導で大阪回生病院の蓮川昭仁先生が、“Surgical effects of type-I thyroplasty and fat injection laryngoplasty on voice recovery”を発表しました。



2022年10月15日



第94回奈良県耳鼻咽喉科講習会が、リガーレ春日野にて開催されました。

当科関連からは、奈良県総合医療センターの松山尚平先生が『当科におけるウィルス性顔面神経麻痺の臨床的検討』につき一般演題で講演いたしました。

特別講演では、信州大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教授の工穰先生に『様々な小児の気道疾患とその対応～アレルギー性鼻炎から緊急気道疾患まで』について、非常にわかりやすくご講演いただきました。



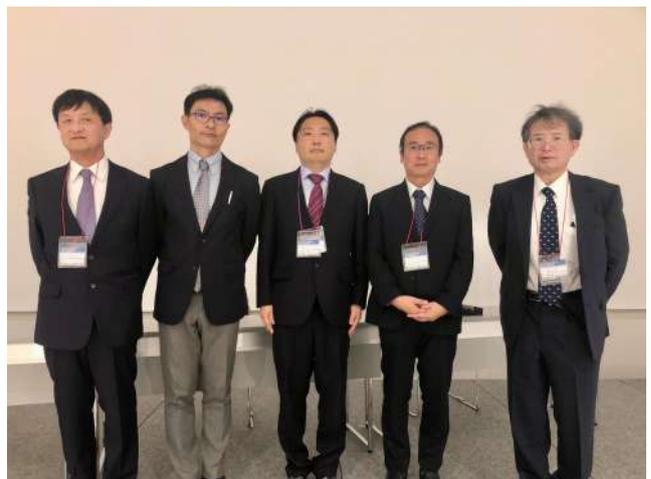
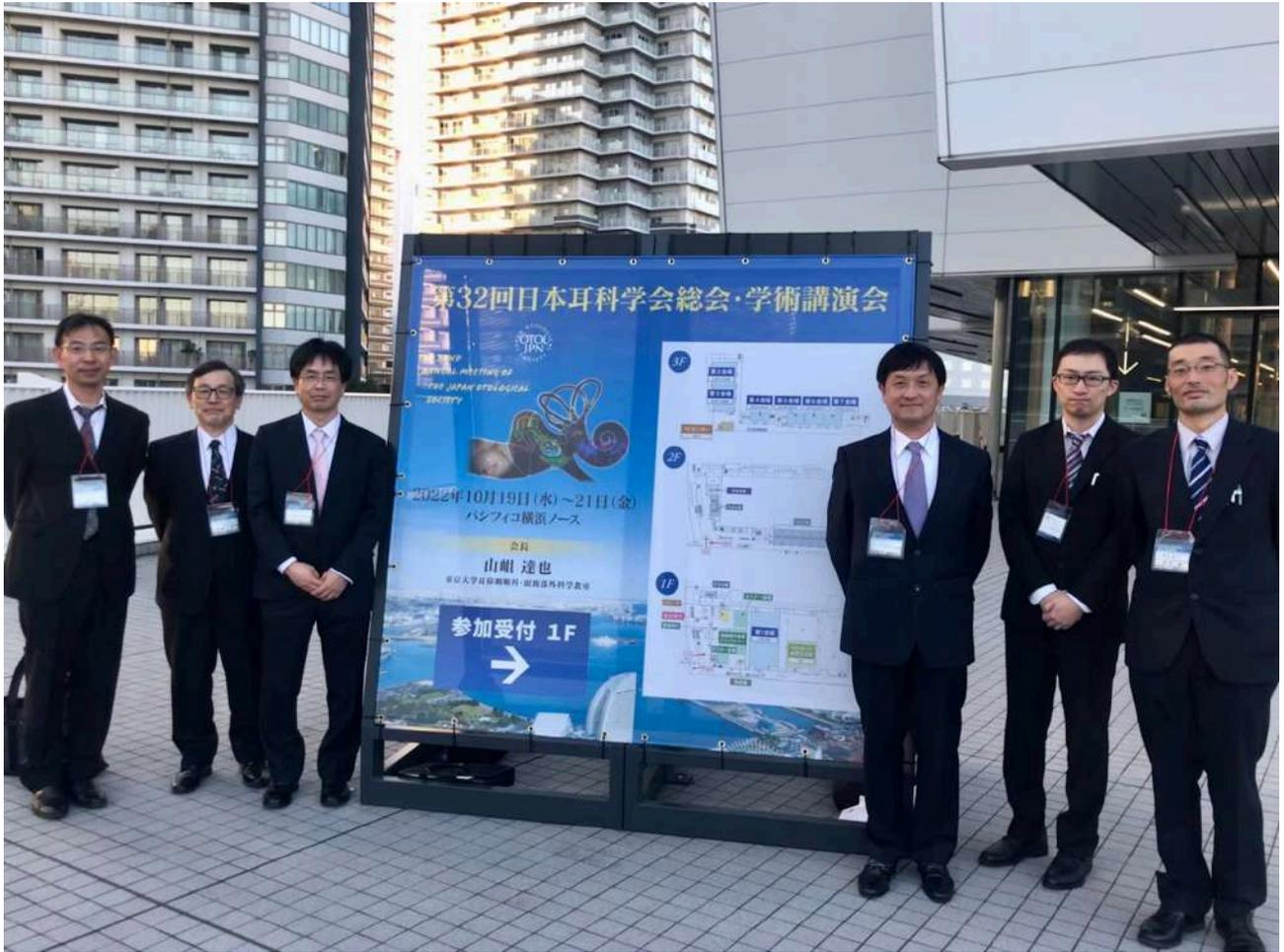
2022年10月20日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の山下です。今週は第32回日本耳科総会・学術講演会がパシフィコ横浜で開催されているため、北原教授、西村医局長が共に不在となりました。そのため、『急性中耳炎』の反転授業に続いて5回生1週ポリクリ総括を山下がおこないました。今週は、鼓室形成、扁桃摘出術、鼻内視鏡と耳鼻科の基本となる手術症例をしっかりとまとめていただきました。



2022年10月20日



2022/10/19-10/21まで、東京大学主催の日本耳科学会が、パシフィコ横浜ノースで開催されています。海外からはミシガン大学クレスギ聴覚研究所のGabriel Corfas教授に、新しい疾患概念-Hidden Hearing Loss-をご講演いただきました。実は学会直前に奈良医大でもご講演いただいています。奈良医大、奈良総合、日本生命、ベルランドから多数の演題発表がありました。



2022年10月28日

現在、静岡がんセンターに国内留学中の西村です。原著論文 "Prognostic impact of the number of metastatic lymph nodes after surgery in locally advanced hypopharyngeal cancer" がBMC Cancer誌にPublishされました。

局所進行頭頸部Kの術後病理所見において断端陽性、節外浸潤がリスク因子であることが知られています。しかし転移リンパ節個数については未だ見解が定まっておりません。この論文では下咽頭Kにおいて3個以上の転移リンパ節が予後不良であったことを示すことが出来ました。

ご指導頂きました横田先生を始め、静岡がんセンターの諸先生方に重ねて感謝申し上げます。

[https://bmccancer.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12885-022-10172-8?](https://bmccancer.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12885-022-10172-8?fbclid=IwAR17ftTpsyWulmj3mz8MKEpKVuz1118d-8qswQHA58wGXXygsoJ8qjMfejs)

[fbclid=IwAR17ftTpsyWulmj3mz8MKEpKVuz1118d-8qswQHA58wGXXygsoJ8qjMfejs](https://bmccancer.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12885-022-10172-8?fbclid=IwAR17ftTpsyWulmj3mz8MKEpKVuz1118d-8qswQHA58wGXXygsoJ8qjMfejs)



2022年10月28日

NARA GUIDEBOOK



By □ HNSNMU

ORL□ HNS

ならレスト
ランガイド



奈良県コンベンションセンター
周辺

当科・北原 紘教授が大会長を務める第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会が2022年11月16～18日に開催されます。開催まであと3週間となりました。

学術講演会のメインは学術活動ではありますが、全国から多くの先生方が奈良にいらっしゃるのでも奈良の魅力を感じ、満足していただきたいというのが私たちの思いです。そこでこの度、奈良ガイドブックを奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科で作成させていただきました。このガイドブックは、奈良県の代表的なエリアを紹介しています。

観光地を巡る際には食事は大切な要素です。レストランに関しては「奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科」からおススメのお店をご紹介します。医局員の誰かがよく立ち寄りのお店で、「地産の食材にこだわっている」、「ロケーション・景色が素晴らしい」、「店内の雰囲気は奈良らしい」などの基準で掲載させていただきました。

是非、現地に参加して奈良の魅力を堪能してください。ガイドブックはコメント欄のリンクからご覧になれます。

https://drive.google.com/file/d/1hpNfdPuLQBXwxhASDtAAK8UtuNVg6TkO/view?fbclid=IwAR2HtBqdXhLA3KklbMnGCxhKp3dX4lvzhRDlxFD_kXI6FzpWN0N11HYcGow



2022年10月28日

第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会日程表/令和4年11月17日(木)
※日程表の左下に★マークの付いているプログラムはオンライン配信対象セッションです。

会場名	奈良県コンベンションセンター			ポスター会場
	1階	2階	3階	
部屋名	第1会場 コンベンションホールA	第2会場 コンベンションホールB	第3会場 203	204
8:00				
9:00	第1セッション 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第2セッション 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第3セッション 【BPPV】 司会：松本 隆 講演：佐藤 隆	
10:00	シンポジウム1 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第4セッション 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆		ポスター貼付 8:00~12:00
11:00				
12:00				
13:00				
14:00	学会賞授賞式・表彰 14:00~14:30			
15:00	第1セッション 【めまい・内リンパ】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第2セッション 【めまい・内リンパ】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第3セッション 【めまい・内リンパ】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	
16:00				
17:00				
18:00	スイーツセミナー 【VOGの臨床的意義】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	スイーツセミナー 【VOGの臨床的意義】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	スイーツセミナー 【VOGの臨床的意義】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	ポスター発表 17:25~18:25
19:00				

(18)

第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会日程表/令和4年11月18日(金)
※日程表の左下に★マークの付いているプログラムはオンライン配信対象セッションです。

会場名	奈良県コンベンションセンター			
	1階	2階	3階	2階
部屋名	第1会場 コンベンションホールA	第2会場 コンベンションホールB	第3会場 203	202
8:00				
9:00	第1セッション 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆	第2セッション 【めまい】 司会：山手 祐司 講演：松本 隆 講演：佐藤 隆		
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00				
17:00				
18:00				
19:00				

(19)

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。来月11月17-18日に奈良市のJWマリオット横・コンベンションセンターで日本めまい平衡医学会が開催されますが、残念ながら長引くコロナの影響で学会恒例木曜夜の会員全体懇親会(立食ビュッフェ形式)を中止せざるを得ない事情がございます。そのため皆様に少しでも奈良県おススメお食事処を紹介たく、先のfacebook記事でアナウンスさせていただきました。

学会プログラムをご覧いただくと、木曜夕方にはスイーツセミナーを3部屋ご用意させていただいております。奈良県のスイーツを楽しみながら、VOG検査の将来性、抗CGRP抗体治療の可能性、医療福祉共通講習を勉強していただき、お食事処へとお運びください。

また、学会プログラム左下に黒い星印が付いている講演は事後的に視聴できるメニューです。奈良までお越しになれない先生におかれましては、これらのオンデマンド配信で「めまいの原因を紐解いて」いただければ幸いです。



2022年11月2日



11月16日～18日で開催される第81回日本めまい

平衡医学会学術講演会ではサプライズ企画としてゆるキャラとのふれあい企画が予定されています。奈良のゆるキャラ人気ナンバーワンのしかまるくんと奈良県立医科大学の公式ゆるキャラであるしょうとくた医師くんが登場予定です。学会に参加される方はぜひ写真をとって奈良土産にしてください。

本番まで医局員で協力して準備を進めてまいります。企画だけでなく学術的にも充実のプログラムになっています。学会に参加される方々が参加してよかったなと思えるような記憶に残る学会になるよう残り期間頑張っていきます

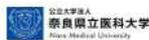


2022年11月4日



第36回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会
めまい平衡領域
試験問題解説

1. 解剖 側頭骨
2. 救急 トリアージ
3. 外来初診 問診 検査
4. 疾患各論 疫学 病態 検査 治療
5. 検査各論 理論 判定 実際
6. 手術 適応 説明 過程 術後



験のためのめまい講習」、西村忠己先生の6日日曜午後2時「補聴器相談医のための耳型採型実習」と続きます。

「めまい講習」の内容は単純な過去問解説にとどまらず、明日からのめまい診療をソツなくこなすことができるコツを伝授したく思っています。テキストには大ざっぱなことしか記載できませんが、参加いただく先生方にはこの日お話しする講義内容ハンドアウトPDFをお渡しします。是非、現地にお運びいただき、参加しなかった先輩を出し抜いてください。

<https://drive.google.com/file/d/1s91cbAaeKxsdlZYSx0TvTze9J5Cc8zhT/view?usp=sharing>
pwは当日会場にて⇒Ori-hns2022

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜はこの学年ラス前の5回生1週ポリクリ総括でした。ラストは残念ながらめまい学会と重なるので西和医療センターの金田宏和部長に総括していただく予定です。

明日11月5日土曜日からの2日間、大阪国際会議場で近畿ブロック担当の日本耳鼻咽喉科頭頸部外科秋季大会が開催されます。奈良医大からは上村裕和先生の5日土曜午前9時「勤務医のための早期舌がん手術」、北原の午前10時「専攻医/専門医認定試



2022年11月9日

11月10日(水)
プログラム

特別演題プログラム
11月17日(木)

教育セミナー1 「神経生理学からめまいの原因を紐解く
—前庭学会・平衡神経科学会・めまい平衡医学の歩みと共に—

【耳鼻咽喉科領域講習】

9:00~10:00 司会：小松崎 篤 (東京医科歯科大学名誉教授)
第1会場 演者：藤田 義一 (東京医科歯科大学名誉教授)

●本学会のあゆみとともに神経生理学からめまいの原因を考えましょう

教育セミナー2 「めまい聴能を繰り返す疾患を整理する」

【耳鼻咽喉科領域講習】

9:00~10:00 司会：宇佐美真一 (信州大学名誉教授/信州大学医学部人工聴覚器学講座)
第2会場 演者：船井 新 (新潟大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科分科)

●いろいろあるめまいと聴能を繰り返す疾患を今一度整理しましょう

シンポジウム1 「側頭骨病理からめまいの原因を探る」

【耳鼻咽喉科領域講習】

10:10~11:40 司会：高多村 健 (湘南医科大学副学長)
第1会場 演者：伊藤 孝一 (京大名誉教授)
演者：森島 伸一 (大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
竹内 英博 (昭和大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座)
鎌倉 武史 (大阪大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
岡安 唯 (奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

●原因不明のまま亡くなられたためめまい患者の側頭骨病理から謎を解明するシンポジウム

ミニパネルディスカッション1 「診断しにくいめまい症例をどう扱うか」

10:10~10:55 司会：藤尾 敏 (聖マリアンナ医科大学横浜山西部病院耳鼻咽喉科)
第2会場 演者：中村 正 (なかもろ耳鼻咽喉科クリニック)
船在野吉一郎 (慶応大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
伊藤 妙子 (奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

●つかみどころのないめまい患者が来たらどうさばくか施設別に考えるパネル

特別演題プログラム
11月18日(金)

モーニングセミナー1 「ストレスと内リンパ水腫とメニエール病」

8:10~9:10 司会：阪上 雅史 (兵庫医科大学病院)
第1会場 演者：北原 礼 (奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
(共催：クラシエ薬品株式会社)

モーニングセミナー2 「チーム作りの秘訣〜コミュニケーションをうまくとる〜31のTips」
【専門医共通講習 (国立支援)】

8:10~9:10 司会：家根 昌有 (近畿大学医学部奈良病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
第2会場 演者：白舟 敬祐 (ゲート大学医学部聴覚内科)
(共催：紙火会)

教育セミナー3 「視線保持のメカニズムからめまいの原因を紐解く」
—神経積分器における興奮性回路の活性化機構について—
【耳鼻咽喉科領域講習】

9:20~10:20 司会：古瀬 恒成 (群馬大学名誉教授)
第1会場 演者：齋藤 康彦 (奈良県立医科大学第一生理学講座)
●基礎医学：視線保持のメカニズムからめまいの原因を考えましょう

教育セミナー4 「平衡訓練の基準2021：解説と実践」
【耳鼻咽喉科領域講習】

9:20~10:20 司会：肥後 晃 (聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科)
第2会場 演者：伏木 史彰 (日本大学理学部理学療法センター)
萩原 啓文 (長野県立大学保健学部リハビリテーション学理学療法学専攻)

●医学的原理を理解した上で前庭リハを実践しましょう

11月19日(土)
プログラム

11月18日(金)
プログラム

ミニパネルディスカッション2 「BPPVに関する疑問を話し合う」

10:55~11:40 司会：小川 恭生 (東京医科大学八王子医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
第2会場 演者：重野浩一郎 (東野耳鼻咽喉科めまい・難聴クリニック)
今井 貴夫 (ベルランド総合病院めまい・難聴センター)
Ja-Won Koo (Department of Otorhinolaryngology, Seoul National University Bundang Hospital, Seoul National University College of Medicine)

●本当にエプリーで耳石は元に戻る？耳石以外がウロウロするBPPVはある？

招待講演1 「Functional and structural changes of superior canal after surgical plugging of superior canal dehiscence syndrome」

【耳鼻咽喉科領域講習】

11:50~12:50 司会：曾根日出夫 (富山大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科)
第1会場 演者：Ja-Won Koo (Department of Otorhinolaryngology, Seoul National University Bundang Hospital, Seoul National University College of Medicine)

●上半規管閉鎖症候群の術後機能変化と形態変化について

ランチョンセミナー1 「リアルタイムVOG解析でわかる日常めまい診療」

13:00~13:50 司会：小松崎 篤 (東京医科歯科大学名誉教授)
第1会場 演者：船支 相雄 (船支耳鼻咽喉科・めまいクリニック)
(共催：株式会社モリタ製作所)

ランチョンセミナー2 「『使えば、変わる…』ビデオヘッドインパルス検査 video Head Impulse Test」

13:00~13:50 司会：堤 翔 (東京医科歯科大学耳鼻咽喉科)
第2会場 演者：新藤 晋 (埼玉医科大学耳鼻咽喉科)
(共催：リオン株式会社)

ランチョンセミナー3 「椎骨脳底動脈循環不全とめまい—Hemodynamic VBI revisited—」

13:00~13:50 司会：土井 勝美 (医療法人医誠会)
第3会場 演者：山中 敏彰 (近畿大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
(共催：興和株式会社)

招待講演2 「Multiscale imaging of the human inner ear: state of the art and future prospects」

【耳鼻咽喉科領域講習】

11:40~12:40 司会：山中 敏彰 (近畿大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
第1会場 演者：阪上 雅治 (Stanford University, Department of Otolaryngology-Head & Neck Surgery, Stankovic lab, 奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
Stankovic M, Konstantina (Department of Otolaryngology - Head and Neck Surgery, Stanford University School of Medicine, Stanford, California, USA)

●近未来、内耳の細かいところまで見える検査で原因不明のめまいを解決!!

シンポジウム2 「超高齢社会におけるめまい対策」
【耳鼻咽喉科領域講習】

15:40~17:10 司会：石川 和夫 (秋田赤十字病院耳鼻咽喉科・めまいセンター)
第1会場 演者：山本 昌彦 (東京大学名誉教授)
岩崎 真一 (名古屋国立大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
佐藤 豪 (徳島大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科分科)
城倉 健 (横浜市立大学中・神経センター-脳神経内科)
堀崎 智之 (奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

●日本経済が沈没しないように超高齢社会におけるめまいを何とかするシンポジウム

ミニパネルディスカッション3 「めまいの原因は実は…だった」

15:40~16:25 司会：池田 哲郎 (埼玉医科大学耳鼻咽喉科)
第2会場 演者：大塚 康司 (東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科)
角南貴司子 (大阪公立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科頭頸部外科)
松田 帆 (埼玉医科大学耳鼻咽喉科)

●昨日診察した原因不明のめまい患者の解が見つかるパネル

ミニパネルディスカッション4 「内耳造影MRIからめまいを考える」

16:25~17:10 司会：曾根三千彦 (名古屋大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科)
第2会場 演者：吉田 忠雄 (名古屋大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科)
星月 文雄 (聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科)
松 洋史 (いびい耳鼻咽喉科)

●内耳造影MRIの台頭でメニエール病診断以外にわかったことを話し合うパネル

11月18日(金)
プログラム

11月18日(金)
プログラム

演、シンポジウム、パネルの一行サマリーを赤字で書き込みました。興味ある演題を現地もしくはオンデマンドでお楽しみください。

(注)事前WEB登録が必須です。



2022年11月17日



第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会
が、昨日から奈良県コンベンションセンターで開催
されています。

現在も活発な討論が行われていますが、学生実習
もおろそかにはできません。そこで今週は奈良県
西和医療センター耳鼻咽喉科部長の金田宏和先生
に、特別講義と総括を行っていただきました。

『めまいの原因を紐解く』にむけて、学会では明
日までディスカッションが続きます。



2022年11月18日

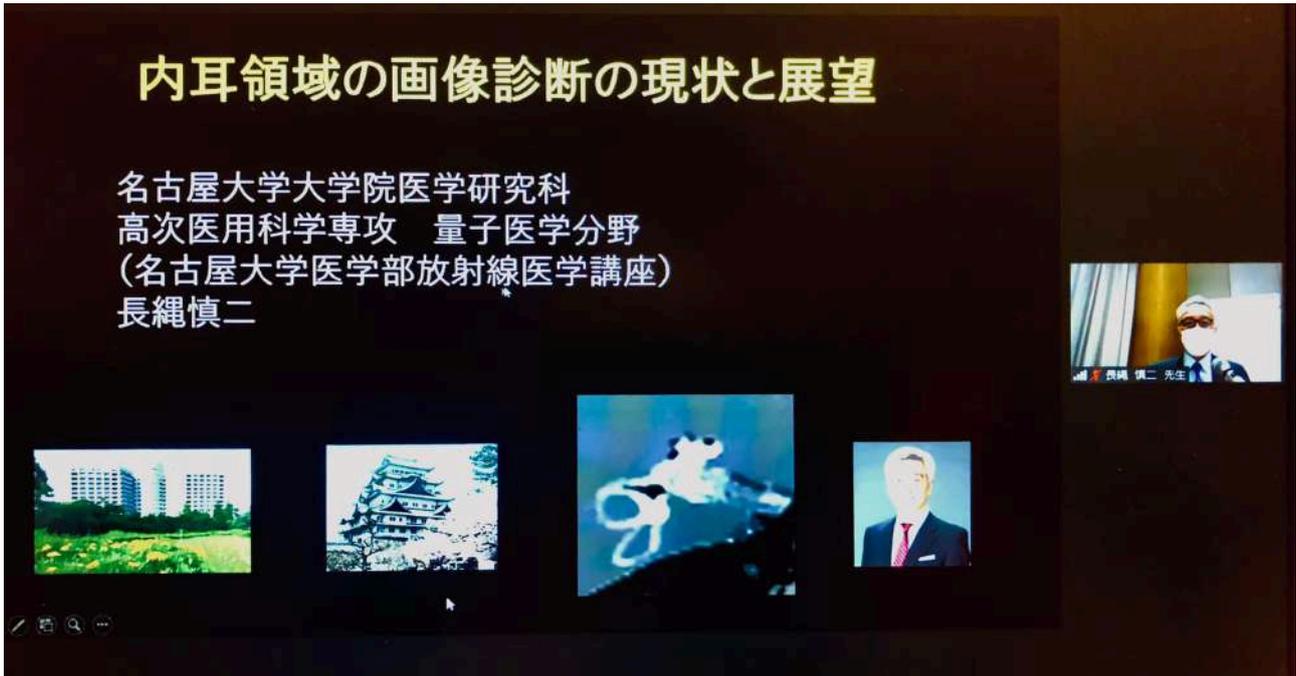


第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会が、11月16日から3日間、奈良県コンベンションセンターで開催されました。『めまいの原因を紐解く』ために、多くのご演題をいただきありがとうございました。この学術講演会で得られたものが、明日からのめまい診療の一助になれば幸いです。

ご参加いただいたみなさま、また開催のご尽力をいただきましたみなさまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



2022年11月19日



第6回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会(旧：奈良-大阪めまい研究会)は、第81回日本めまい平衡医学会・閉会後の流れを引き継いだ形で(2022.11.18.FRI)、JWマリオットホテル奈良でハイブリッド開催されました。今回は奈良医大に担当させていただき、大阪大学・忽那賢志教授に「COVID-19流行状況と最近の話題」、名古屋大学・長縄慎二教授に「領域講習：内耳領域の画像診断の現状と展望」をご講演いただきました。来年は大阪公立大学のご担当で、再びシェラトン都ホテル上本町での開催を考えています。



2022年11月19日

Program

開会の辞 奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 玉木 克彦 先生
15:30-15:35

特別講演 1
15:35-16:30 特別講演

座長 天理よろづ相談所病院 耳鼻咽喉科
部長 児嶋 剛 先生

食を楽しむために：においと嚥下、鼻アレルギーの観点から
演者 東京大学医学部附属病院 摂食嚥下センター/耳鼻咽喉科・頭頸部外科
准教授 上羽 瑠美 先生

特別講演 2
16:30-17:25

座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
教授 北原 紘 先生

チーム医療って簡単？～傷あとを見せてみい～
演者 ダートマス大学 腫瘍内科
教授 白井 敬祐 先生

閉会の辞 近畿大学奈良病院 耳鼻咽喉科 教授 家根 旦有 先生
17:25-17:30



奈良県耳鼻咽喉・頭頸部外科セミナーは、昨年に引き続き座長と講師のみ現地参加での完全リモート開催。例年、奈良県大和郡山市のLe BENKEIでオシャレに開催されるのですが、今年は週末の日本めまい平衡医学会の流れでJWマリオットホテル奈良の一室となりました(2022.11.19.SAT)。

特別講演には、奈良医大にゆかりのあるお二方をお招きしました。お一人目の東京大学 摂食嚥下センター准教授 上羽瑠美先生には「食を楽しむために：においと嚥下、鼻アレルギーの観点から」について、お二人目のダートマス大学 腫瘍内科教授 白井敬祐先生には「チーム医療って簡単？～傷あとを見せてみい～」について、ご講演いただきました。



2022年12月1日

The 81st Annual Meeting of the Japan Society for Equilibrium Research
第81回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会
2022年11月16日 wed.-18日 fri. 会長 北原 紘
奈良県コンベンションセンター 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座

オンデマンド配信特設サイト

HOME

会長挨拶

開催概要

日程表・プログラム

参加登録

演題募集・演題採択一覧

参加者へのご案内

司会・座長・発表者へのご案内

宿泊予約

会場案内・アクセス

協賛申込

オンデマンド配信特設サイト

オンデマンド配信特設サイト

オンデマンド配信視聴方法

上記「オンデマンド配信特設サイト」からマイページにログインすることでプログラムの視聴が可能です。
視聴には参加費支払い完了後にメール配信されるIDとパスワードをご入力ください。
配信メールのタイトル：
「参加登録が完了しマイページへのログインIDが発行されました」

※IDは81から始まる6桁の数字、パスワードはご自身で設定されたパスワードです。
※メールサーバーのセキュリティの関係で、ご案内が「迷惑メールフォルダ」に入る場合がございます。ご案内が届かない場合、一度ご連絡をお願いいたします。

オンデマンド配信動画の視聴には参加登録が必要です。
参加登録がお済みでない方は [こちら](#)

参加登録期間、オンデマンド配信期間

参加登録期間：2022年10月3日（月）正午～12月16日（金）正午
オンデマンド配信期間：2022年12月1日（木）正午～12月16日（金）正午

※オンデマンド配信の対象セッションは「[目録表](#)」をご参照ください。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。皆様のご協力により、第81回日本めまい平衡医学会の現地開催を盛況のうちに終えることができました。ありがとうございました。つきましては、オンデマンド配信が本日12月1日正午より12月16日正午まで開講されます。

なかなか学会内容のコンセプトが皆様にうまく届かない部分があると思いますが、今回めまいが苦手な先生方に聴講していただきたかったミニパネルが2つ、シンポの裏番組として組まれていました。

1. 診断しにくいめまい症例をどう扱うか（座長：瀬尾 徹先生）
2. めまいの原因は実は・・・だった（座長：池園哲郎先生）

自分の目の前に座っているめまい患者さんが世界初の病気であるわけがない。教科書の最初のページに出てくる病気に決まっています。この考え方を「謙虚なめまい診療」と呼んでいます。

上記2つのミニパネルで「病名を付けずにめまい止めを出して帰宅させるめまい診療」に終止符を打つことができると信じています。現地参加されなかった先生、シンポに参加して裏番組に参加できなかった先生、是非ご聴講ください。



2022年12月9日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週から新5回生の1週ポリクリが始まり、金曜午後は総括+めまいクルズをさせていただきました。今回から毎週総括というスケジュールになりましたので、学生も教員もなかなか大変です。

毎年度クルズ内容を見直すのですが、今年度は「わかりやすく興味深いめまい診療」と題して、めまい救急トリアージから外来検査・入院検査をこなして疾患各論へと導く、めまい診療の流れ全体を理解する内容にしました。

SAMURAI BLUEのW杯@カタールも終わり、今年もあと3週間。コロナ第8波が囁かれておりますが、慎重にしかし熱く進めて参りたいと思います。良い週末をお過ごしください。



2022年12月16日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生1週ポリクリ総括でした。この学年から各科1週間しか無いポリクリ中に各種トピックスを必ず経験してもらう教育システムとなりました。症例総括では、「中耳疾患」として中耳真珠腫、「頸部腫瘤」として顎下腺K、「頸部リンパ節」として濾胞リンパ腫を課題として、検査診断治療に関してしっかり考察しました。「めまい」はクルズスにて、神経学/神経耳科学に基づいて、鑑別診断をしっかり勉強しました。ここ数日、朝晩がとても冷え込み、外出時の手袋とマフラーが欠かせない季節となりました。体調管理に気をつけて、良い週末をお過ごしください。



2022年12月23日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生1週ポリクリの年内最終総括+めまいクルズスでした。今週は耳鳴⇒グロムス腫瘍、難聴⇒真珠腫、鼻閉⇒鼻中隔彎曲症、嚙声⇒声帯腫瘍と、耳鼻咽喉科によくある症状から手術に至る過程および手術内容を勉強してもらうことができました。

年明け早々のアナウンスです。2023.1.12(Thu)にNHK・石原さとみ「あしたが変わるトリセツショー」および2023.1.28(Sat)にBS朝日・

草野仁「名医が寄り添う!カラダ若返りTV」にて、奈良医大めまいセンターが取り上げられます。今年も残りわずか1週間。良い週末をお過ごしください。



2022年12月28日



Resection of brachial plexus schwannomas while monitoring transcranial motor evoked potentials: report of two cases

Akihisa Tanaka^{1,2}, Hirokazu Uemura³, Tsunenori Takatani¹, Masahiko Kawaguchi¹, Sachiko Kawasaki¹, Hironobu Hayashi¹, Takahiro Kimura¹, Tadashi Kitahara¹

¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara, Nara 634-8522, Japan
²Department of Anesthesiology, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara, Nara 634-8522, Japan
³Department of Orthopedic Surgery, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara, Nara 634-8522, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 11 October 2021
Accepted 29 November 2021
Available online xxx

Keywords:
Transcranial motor evoked potential
Schwannoma
Erythrokinin
Intraoperative monitoring
Brachial plexus
Head and neck surgery

ABSTRACT

A schwannoma is a benign nerve sheath tumor treated by enucleation, which carries the risk of intraoperative nerve injury that is observed after awakening. Transcranial motor evoked potential (TcMEP) monitoring has been established as an effective method to predict and prevent intraoperative neurological complications during brain and spinal surgery. However, there have been few reports on its application in head and neck surgeries. We performed enucleation to relieve the symptoms due to schwannomas in the neck of two women, aged 25 years and 70 years. Both women presented with a left cervical mass, paresthesia of the left upper limb, and a Tinel-like sign without muscle weakness. TcMEPs were recorded before beginning surgery, during surgery, and immediately before completing surgery. The dissecting lines were decided using the stimulator attached to the dissecting instrument, which helped warn the surgeon regarding risky areas. Intraoperative monitoring confirmed the diagnosis of schwannoma. There was no significant difference in the pre- and postoperative TcMEP recordings, and no postoperative motor deficits were identified. Intraoperative TcMEP monitoring is expected to be useful in preventing operative complications while treating head and neck schwannomas.

© 2021 Oto-Rhino-Laryngological Society of Japan, Inc. Published by Elsevier B.V. All rights reserved.

SHORT COMMUNICATION



Late-onset and congenital hearing loss detected using AABR due to congenital cytomegalovirus infection that improved with valganciclovir

Chihiro Morimoto¹ | Toshiya Nishikubo² | Tadashi Nishimura¹ | Tomoko Onishi³ | Masahiro Takeyama³ | Yumiko Uchida² | Shintaro Otsuka¹ | Toshiaki Yamanaka¹ | Tadashi Kitahara¹

¹Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Nara, Japan
²Division of Neonatal Intensive Care, Maternal, Fetal and Neonatal Medical Center, Nara Medical University Hospital, Kashihara, Nara, Japan
³Department of Pediatrics, Nara Medical University, Kashihara, Nara, Japan

Correspondence:
Chihiro Morimoto, Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara, Nara 634-8522, Japan.
Email: mori@naramed-u.ac.jp

Abstract

Congenital cytomegalovirus (cCMV) infection is the most common congenital viral infection and is the leading non-genetic cause of sensorineural hearing loss and an important cause of neurodevelopmental disabilities. A oto auditory brainstem response (AABR) is a simple hearing test and used for the purpose of neonatal hearing screening, but can use it for early detection hard of hearing within the study age of the model. We experienced two case of asymptomatic CMV infection in which congenital and late-onset hearing loss were diagnosed early with AABR, and hearing loss improved with valganciclovir.

KEYWORDS:
automated ABR, congenital cytomegalovirus infection, congenital hearing loss, hearing improvement, late-onset hearing loss

症例報告の査読には厳しい対応を取る雑誌が多い中で、当科から報告した2本はいずれも臨床的に重要な症例報告です。

頸部神経鞘腫の術中経頭蓋刺激モニタリングの有用性を当院麻酔科と共同検証したものがANL誌に、先天性サイトメガロウイルスによる遅発性進行性感音難聴に対するvalganciclovirの有用性を当院小児科と共同検証したものがCA誌に受理されました。ご協力ありがとうございました。

いずれの症例報告も症例を重ねデータを集めていくべき段階ですが、関係者はその有用性を目の当たりにしています。それぞれ専門医取得前の専攻医、家庭との両立を実践する女性医師からの発信であるところにも注目していただきたい。



2022年12月28日



今年最後の医局公式行事、納会を先日医局会に合わせておこないました。年末が近づくにつれ、奈良県でも新型コロナウイルス感染症患者が急増していることもあり、北原教授、上村准教授の訓示の後に、感染対策をとりながら、今年一年の反省と来年の目標などを医局員で共有いたしました。

今年一年ありがとうございました。

令和5年1月3日までは当直体制、1月4日から通常診療の予定です。来年もよろしくお願いいたします。